

# 十間屋敷遺跡

—第10次発掘調査報告—

令和2（2020）年3月  
久留米市教育委員会

# 十間屋敷遺跡

—第 10 次発掘調査報告—

令和 2（2020）年 3 月  
久留米市教育委員会

## 序

久留米市は古くから水路と陸路の要衝としての位置を占め、筑後地方における政治・経済・文化などの面で発展を遂げてきました。また、それに伴い市内各所に数多くの文化財が残されています。

久留米市教育委員会は、開発によって失われる先人が残した貴重な文化財を後世に伝えていくために、現状保存、あるいは発掘調査を行うことで記録保存の措置を講じています。

今回の発掘調査は、久留米城下の南東部に位置する日吉町で実施しました。今回の発掘調査とその成果を通して、久留米の歴史と文化財保護に対する理解や普及などに貢献できれば幸いです。

末文となりましたが今回の発掘調査に際して、土地所有者の方々をはじめ、関係各位に多大なご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。

令和2年3月31日

久留米市教育委員会  
教育長 大津 秀明

## 例 言

1. 本書は、共同住宅建設に先立ち株式会社コーセーアールイー 代表取締役 諸藤敏一氏の委託を受けて実施した、十間屋敷遺跡第 10 次調査の発掘調査報告書である。
2. 調査は久留米市教育委員会が調査主体となり、市民文化部文化財保護課の大隈彩未と長谷川桃子が担当した。
3. 遺構実測図の作成は、調査担当者と当課職員の熊代昌之が行い、浄書は当課専任非常勤職員の今村理恵が行った。
4. 空中写真以外の遺構写真はマミヤ RB67 を用いて、調査担当者が撮影した。調査区全体の空中写真は、有限会社空中写真企画が気球を用いて撮影した。遺物写真は、久留米市埋蔵文化財センターにおいて、PENTAX K-1 II を用いて大隈・長谷川が撮影した。
5. 図面の方位は座標北を示す。基準点の座標は、国土調査法第Ⅱ座標系（世界測地系）を用いた。なお、平成 28 年の熊本地震に伴うパラメーター補正は行っていない。
6. 遺構表記の略記号は、以下の通りである。  
S D－溝    S E－井戸    S K－土坑    S P－ピット    S X－その他の遺構
7. 遺物観察表の凡例は、以下の通りである。
  - ・法量の単位は cm である。（ ）内の数値は復元値および現存値を示す。
  - ・色調は、『新版 標準土色帖』（日本色研事業株式会社、1997 年版）に拠るものである。
8. 実測図と観察表、写真図版の遺物番号は全て同一である。
9. 出土遺物・図面等諸記録は、全て久留米市埋蔵文化財センターにおいて収蔵・保管されている。
10. 本調査の略記号は L K J－010、調査番号は 201805 である。
11. 本文の執筆と編集は大隈が行った。



## 本文目次

I. はじめに	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査及び報告書作成にかかる体制	1
3. 調査の経過	2
II. 位置と環境	2
III. 調査の記録	5
1. 検出遺構	5
2. 出土遺物	22
IV. 総括	32
1. 遺構の変遷について	32
2. 屋敷の土地利用について	32
3. 屋敷の居住者について	32

## 挿図目次

第 1 図 調査地点と周辺の遺跡分布図 (1/25,000)	3
第 2 図 調査地点の位置と周辺地形図 (1/2,500)	3
第 3 図 延寶八年久留米市街図 (1680 年)	4
第 4 図 伝元禄十四年製之古図 (1701 年)	4
第 5 図 天保年間久留米城下図 (1830 ~ 1844 年)	4
第 6 図 安政二年改旧廓図 (1855 年)	4
第 7 図 明治二年旧郭図 (1869 年)	4
第 8 図 十間屋敷遺跡第 10 次調査遺構配置図 (1/150)	6
第 9 図 十間屋敷遺跡第 10 次調査遺構番号図 (1/150)	7
第 10 図 S D 3・6・7・37・11・18・20・31・39・41・77・87 断面図 (S D 11・18・20・31・39・41 は 1/40、それ以外は 1/60)	14
第 11 図 S E 118・120・S K 2・4 実測図 (S K 4 は 1/60、それ以外は 1/40)	15
第 12 図 S K 13・14・24・32・40・44 実測図 (S K 32 は 1/60、それ以外は 1/40)	16
第 13 図 S K 48・49・50・51 実測図 (S K 48 は 1/60、それ以外は 1/40)	17
第 14 図 S K 59・67・70・75・78 実測図 (S K 70 は 1/40、それ以外は 1/60)	18
第 15 図 S K 82・93・111・113・119・121 実測図 (S K 93 は 1/40、それ以外は 1/60)	19
第 16 図 S K 124・126・127・129・130 実測図 (S K 129 は 1/40、それ以外は 1/60)	20
第 17 図 S K 131・135・139・144・145・S X 81 実測図 (S K 131 は 1/60、それ以外は 1/40)	21
第 18 図 都市計画図・天保年間久留米城下図・溝状遺構の合成図 (1/1,500)	32
第 19 図 十間屋敷遺跡第 10 次調査主要遺構時期変遷図 (1/150)	34

## 表 目 次

第 1 表	出土遺物観察表 1	22
第 2 表	出土遺物観察表 2	23
第 3 表	出土遺物観察表 3	24
第 4 表	出土遺物観察表 4	25
第 5 表	出土遺物観察表 5	26
第 6 表	出土遺物観察表 6	27
第 7 表	出土遺物観察表 7	28
第 8 表	出土遺物観察表 8	29
第 9 表	出土遺物観察表 9	30
第 10 表	出土遺物観察表 10	31

## 図 版 目 次

図版 1	(1) 調査区全景 (東上空から)	(3) S K 93 遺物出土状況 (南から)
	(2) 北調査区 (南から)	(4) S K 121 完掘状況 (南から)
	(3) 調査区から通町を望む (南から)	(5) S K 124 完掘状況 (北から)
	(4) 調査区西側断面 (東から)	(6) S K 130 完掘状況 (南から)
	(5) S D 3・31 完掘状況 (北から)	(7) S K 131 完掘状況 (北から)
図版 2	(1) S D 7・37 完掘状況 (南から)	(8) S K 139 完掘状況 (南から)
	(2) S D 11 完掘状況 (南から)	図版 5 遺物写真 1
	(3) S D 20 完掘状況 (南から)	図版 6 遺物写真 2
	(4) S D 41 完掘状況 (南から)	図版 7 遺物写真 3
	(5) S D 77 完掘状況 (南から)	図版 8 遺物写真 4
	(6) S D 87 南壁断面 (北から)	図版 9 遺物写真 5
	(7) S D 87 完掘状況 (北から)	図版 10 遺物写真 6
	(8) S E 118 完掘状況 (南から)	図版 11 遺物写真 7
図版 3	(1) S E 120 断面 (北から)	図版 12 遺物写真 8
	(2) S K 2 遺物出土状況 (南から)	図版 13 遺物写真 9
	(3) S K 4 完掘状況 (北から)	図版 14 遺物写真 10
	(4) S K 13 完掘状況 (南から)	図版 15 遺物写真 11
	(5) S K 14 完掘状況 (北から)	図版 16 遺物写真 12
	(6) S K 32 完掘状況 (西から)	図版 17 遺物写真 13
	(7) S K 40 完掘状況 (南西から)	図版 18 遺物写真 14
	(8) S K 59 完掘状況 (東から)	図版 19 遺物写真 15
図版 4	(1) S K 67 断面 (南から)	図版 20 遺物写真 16
	(2) S K 82 完掘状況 (北から)	

## I. はじめに

### 1. 調査に至る経緯

本調査は、共同住宅建設に伴う事前の発掘調査である。平成30年2月2日、土地所有者の株式会社コーセーアールイー 代表取締役 諸藤敏一氏から久留米市日吉町22-2、22-15、22-16、22-17における「埋蔵文化財包蔵の有無」の照会が提出された。当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地の十間屋敷遺跡で、江戸時代以前の遺構が残存している可能性が高いため、発掘調査が必要である旨を回答した。同年4月2日に発掘調査の依頼が提出され、久留米市長と土地所有者は同年5月23日付で十間屋敷遺跡第10次調査の協定書と委託契約を取り交わした。

現地での発掘調査は同年6月11日に着手し、10月12日に終了した。遺物整理と報告書作成は協定書に基づいた委託契約を取り交わし、令和2年3月31日まで行った。対象面積1,208㎡のうち、調査面積は288㎡である。

### 2. 調査及び報告書作成にかかる体制

調査委託者：株式会社コーセーアールイー 代表取締役 諸藤敏一

調査主体：久留米市教育委員会 教育長：大津秀明

調査総括：久留米市 市民文化部 部長：松野誠彦（平成30年度）

宮原義治（平成31・令和元年度）

文化芸術担当部長：宮原義治（平成30年度）

竹村政高（平成31・令和元年度）

次長：西村信二

文化財保護課 課長：水島秀雄

課長補佐：久保田由美

課長補佐兼主査：白木守 丸林禎彦

主査：水原道範

事務主査：塚本映子 小澤太郎（平成31・令和元年度）

調査担当：大隈彩未 長谷川桃子

整理担当（専任非常勤職員）：米澤美詠子 宮崎彩香 今村理恵

岩坪純子（平成30年度）

#### 発掘調査臨時職員

青木佐智子、秋永絹子、石橋康子、江崎真帆、太江田博子、大淵文子、居石寿智、鐘江清  
川野洋之、川原初美、進上裕永、田中とし子、津留崎順子、中村万喜男、原学、東南  
平田広之、福田猛、舟越朝菜、本荘郁子、松尾朱美、森美月、諸藤稔、矢野崇徳、山口誠也

#### 発掘調査整理臨時職員

山口久美子

### 3. 調査の経過

今回の調査地点は、近世の久留米城下における十間屋敷の範囲に含まれる。近世以前の土地利用の状況を確認することを目的に発掘調査を実施した。平成30年6月11日に調査の開始予定であったが、降雨のため、翌日から6月14日まで重機で表土剥ぎを行った。6月18日より遺構の検出をはじめ、遺構の掘り下げや実測、写真撮影を行った。10月10日に気球を用いて調査区全体の空中写真を撮影した。10月11日には調査区の埋め戻しおよび北側調査区の表土剥ぎを実施した。北側調査区は遺構検出を行い、上面確認のみを行った。遺構の測量と写真撮影を行い、北側調査区の埋め戻しを行った。器材の撤収を行い、10月12日に現地での作業をすべて終了した。

## II. 位置と環境

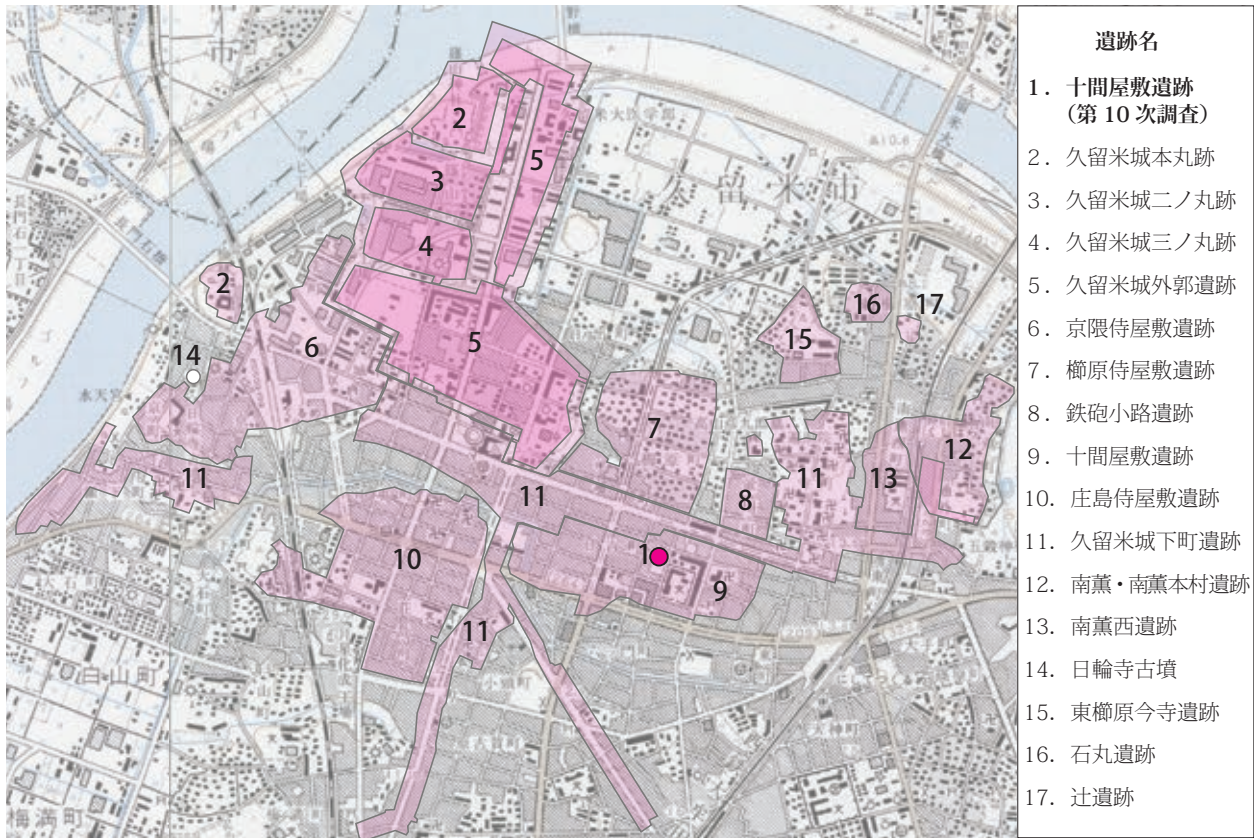
久留米市は、筑紫平野のほぼ中央部に立地し、阿蘇外輪山を起点として有明海まで注ぐ筑後川の中流域に位置する。十間屋敷遺跡は低位段丘上に位置し、本調査地点は標高約12mを測る。

遺跡周辺は、南薫西遺跡で縄文時代とみられる落とし穴が2基確認されている。弥生時代になると、東櫛原今寺遺跡や南薫本村遺跡では竪穴建物が、石丸遺跡や辻遺跡では甕棺墓が検出されており、周辺で集落や墓地が営まれていたことが確認できる。古墳時代は、低位段丘の西端に日輪寺古墳が位置している。5世紀末から6世紀初頭に築造された前方後円墳で、横穴式石室の石障には線刻による装飾が施されている。奈良時代の遺跡付近は筑後国御井郡節原郷に比定されており、その中心的な集落とみられる南薫西遺跡では掘立柱建物群が検出されているほか、多量の墨書土器や刻書土器が出土している。その後、中世期には天徳4（960）年に大宰府安楽寺領櫛原荘が成立する。

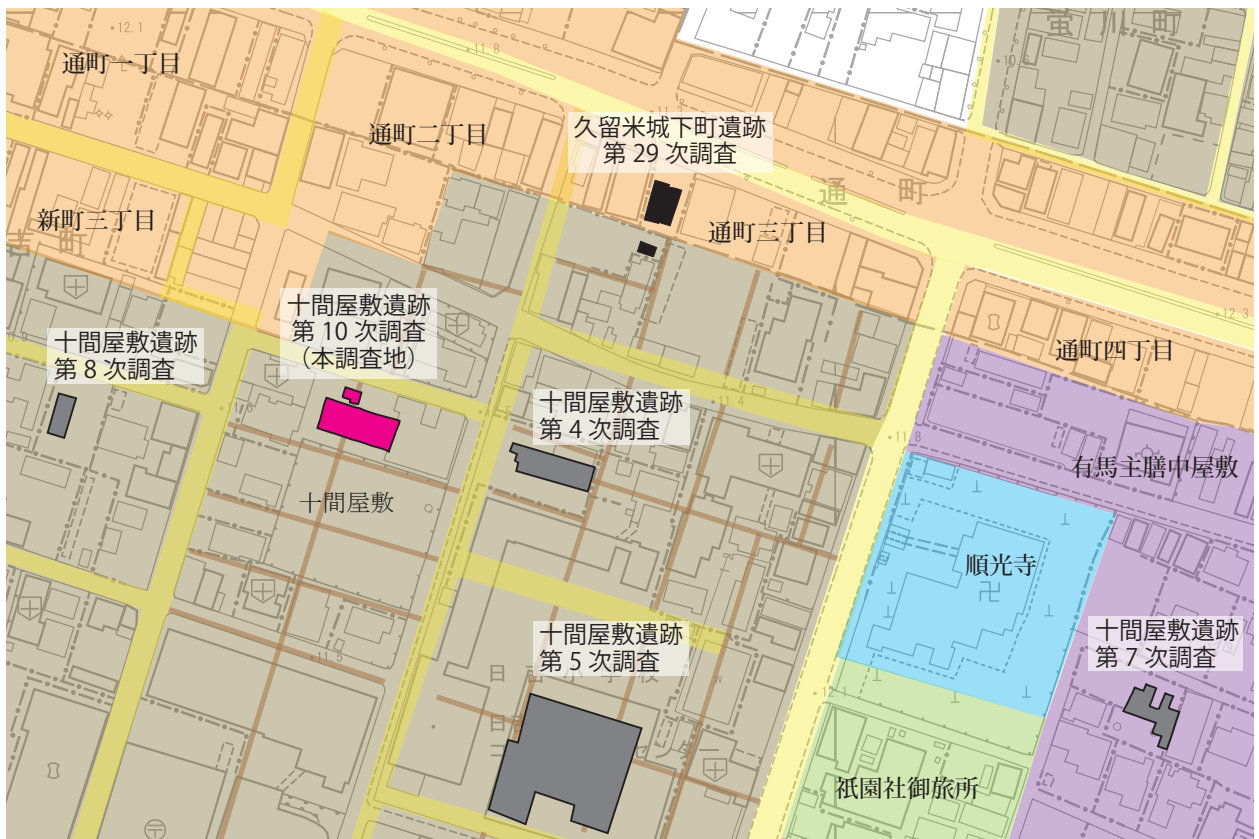
天正15（1587）年には、豊臣秀吉の九州国割に伴って小早川秀包が久留米城に入城した。秀包はキリシタン教会を建てるなど久留米城下の整備を行っている。慶長6（1601）年に田中吉政が筑後国に入国したが、2代忠政が無嫡子のまま死去したため改易となり、元和6（1621）年に丹波国福知山より有馬豊氏が転封となって、入城した。有馬氏入城後には、久留米城下においてさらなる整備が行われ、段丘上には4つの侍屋敷が造成された。そのうちのひとつ、十間屋敷は久留米城下町の東南部、通町筋の南側に位置している。『石原家記』の記述によると、寛永13（1636）年には十間屋敷が完成している。

本調査地は、2区画をまたぐ調査区が設定されている。当時の居住者は、「延寶八年久留米市街図」（1680年）および「伝元禄十四年製之古図」（1701年）によれば、東側が四宮市右衛門、西側が田尻次郎衛門である。その後、居住者が変わり、「天保年間久留米城下図」（1830～1844）や「安政二年改旧廓図」（1855年）、「明治二年旧郭図」（1869年）では、東側が井上弥左衛門、西側は加藤郷蔵が居住を構えていたことが窺える。また、「天保年間久留米城下図」には、東側の井上家の東端に番所が確認できる。



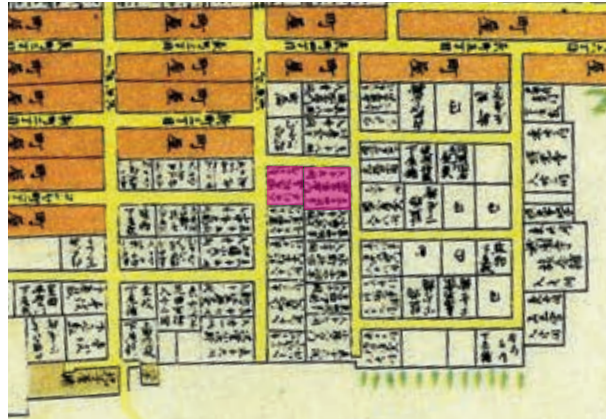


第1図 調査地点と周辺の遺跡分布図 (1/25,000)

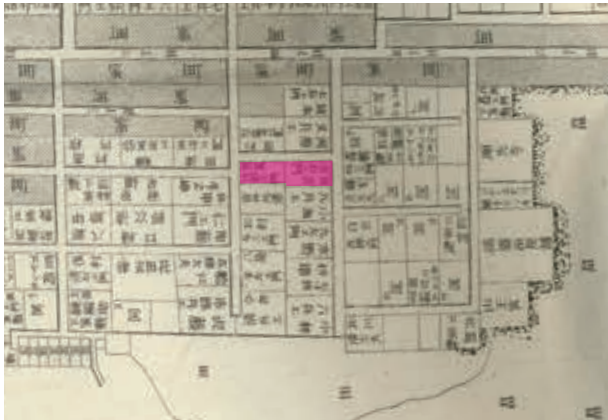


第2図 調査地点の位置と周辺地形図 (1/2,500)

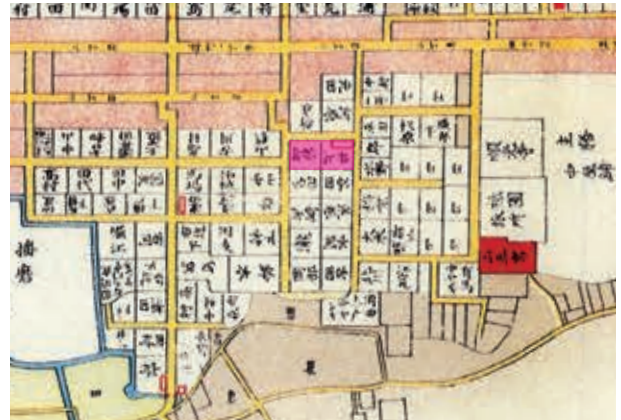




第3図 延寶八年久留米市街図（1680年）



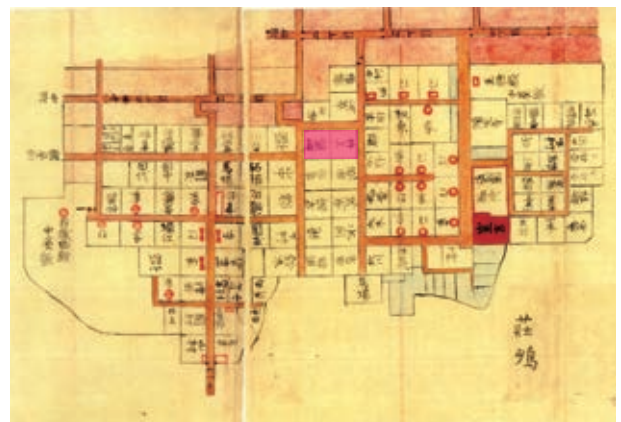
第4図 伝元禄十四年製之古図（1701年）



第5図 天保年間久留米城下図（1830～1844年）



第6図 安政二年改旧廓図（1855年）



第7図 明治二年旧郭図（1869年）

※ ■ は、調査地点を示す。

### Ⅲ. 調査の記録

#### 1. 検出遺構

今回の発掘調査は、十間屋敷の2軒の屋敷地をまたぐ調査区であり、屋敷境の溝などの施設が検出されることが期待された。調査の結果、近世の溝19条、井戸2基、土坑105基、不明遺構1基、ピット多数を検出した。調査区の東端は後世の攪乱によって削平されており、確認できた遺構は少ない。遺構の時期は18～19世紀のものが主体であるが、中には17世紀に遡るものもある。以下、主要な遺構について記す。

##### 溝

##### SD3 (第10図・図版1)

調査区西端で検出された南北溝である。遺構の東・南部は後世の遺構(SK4・24)に削平されている。軸はN-19°-Eで、北端は調査区外にのびる。約4.0m検出し、上端幅0.9m、深さ0.1mを測る。断面は逆台形を示している。遺物は近世陶磁器や土師器、瓦が出土しており、18世紀～19世紀初頭に属する。

##### SD6 (第10図)

調査区西端で検出された南北溝である。軸はN-15°-Eで、南北端は調査区外にのびる。SK4や近代の土坑に先行する。残存部は、長さ4.5m、上端幅0.6m、深さ0.2mを測る。出土遺物の量は少なく、陶器の挿鉢が出土している。遺構の先後関係および出土遺物の特徴から、18世紀後半にはおさまると考えられる。

##### SD7 (第10図・図版2)

調査区西端で検出された南北溝である。SK4・22に先行する。軸はN-16°-Eで、長さ4.5m、上端幅0.4m、深さ0.1mを測る。断面は台形を示す。出土遺物は近世陶磁器や土師器、瓦があるが、大半が細片である。遺構の重複関係から近世期の遺構であると推察される。

##### SD11 (第10図・図版2)

調査区西部で検出された南北溝である。軸はN-9°-Eを測り、南端を近代の土坑に切られている。SD20・39・87に後出する。規模は、長さ3.0m、上端幅0.65mを測り、最深部の深さは0.7mである。底面の高低差が約0.3mあり、溝の北部が浅くなっている。断面は逆台形を示す。遺物は近世陶磁器や土師器が出土しており、18世紀後半に属する。

##### SD18 (第10図)

調査区西部で検出された南北溝である。SD87に後出する。軸はN-17°-Eで、南北端は調査区外にのびる。長さ4.0mを検出しており、上端幅0.5m、深さ0.35mを測る。断面は逆台形で、西から東に緩く傾斜している。遺物は、近世陶磁器や土師器が出土しており、19世紀後半以降の様相を示す。

##### SD20 (第10図・図版2)

調査区西部で検出された南北溝である。軸はN-19°-Eで、SK4・SD11に先行する。長



第8図 十間屋敷遺跡第10次調査遺構配置図(1/150)





さ 4.5 mを検出しており、上端幅 0.8 m、深さ 0.75 mを測る。断面は逆台形を示している。遺物は近世陶磁器や土師器、瓦質土器が出土している。陶器は溝縁や銅緑釉の皿が出土しており、17 世紀後半に属する。

#### SD 31 (第 10 図・図版 1)

調査区西部で検出された溝である。SD 3・SK 32 に先行する。軸は N-19°-E で、長さ 2.3 m、上端幅 0.6 m、最深部は 0.2 mを測る。遺物は近世陶磁器や土師器、石製品が出土しており、18 世紀後半から 19 世紀初頭に属する。

#### SD 37 (第 10 図・図版 2)

調査区西部で検出された溝である。SD 6 と SD 7 の東側に位置し、SK 4 に先出する。軸は N-15°-E で、長さ 2.3 m、上端幅 0.3 m、深さ 0.4 mを測る。断面は逆台形を示している。遺物は、染付碗の細片が 1 点出土したのみで、遺構の重複関係から 19 世紀後半までに収まると考えられる。

#### SD 39 (第 10 図)

調査区西部で検出された溝である。SD 20 や SK 4・40 に先行し、ごく一部が残存する。軸は N-15°-E で、長さ 4.2 mを検出し、上端幅 0.6 m、深さ 0.23 mを測る。断面は逆台形を呈すると想定される。遺物は近世陶磁器や土師器が出土している。17 世紀後半に属する。

#### SD 41 (第 10 図・図版 2)

調査区西部で検出された溝である。SK 32・40 に先行する。軸は N-15°-E で、長さ 0.6 m残存しており、上端幅 0.7 m、深さ 0.45 mを測る。断面は丸みを帯びた逆台形を示している。埋土からは近世陶磁器や土師器、石製品が出土している。17 世紀後半に属する。

#### SD 77 (第 10 図・図版 2)

調査区西部で検出された溝である。軸は N-13°-E を測る。SK 48 に先行し、SK 59・SD 87 に後出する。長さ 7.2 m検出しており、上端幅 0.9 m、深さ 0.45 mを測る。断面は逆台形を示し、北から南に約 0.1 m深くなっている。埋土からの出土遺物は近世陶磁器や土師器、瓦が出土している。検出当初は SK 59 に先行すると判断していたが、遺物整理の結果、SK 59 に後出することが判明した。遺物の時期は、19 世紀後半(幕末)に属する。

#### SD 87 (第 10 図・図版 2)

調査区西部で検出された溝である。調査区を南北に走っており、軸は N-19°-E を測る。SD 11・18・77・SK 48・59 に先行する。南北 10 mを検出し、幅 1.8 m、深さ 1.7 mを測る。北から南に傾斜しており、0.8 mの高低差が生じている。断面は、壁面がえぐれており、南部は逆台形を呈する。遺物は近世陶磁器や土師器、炭化物が出土している。床面からは初期伊万里碗や陶器の溝縁皿などが出土しており、17 世紀前半～中頃に属する。

#### 井戸

#### SE 118 (第 11 図・図版 2)

調査区中央部で検出された素掘りの井戸である。SK 119 に先行する。遺構の上端は、後出す

る遺構に切られており、残存部分の規模は直径 0.95 m・深さ 1.3 mを測る。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。遺物は近世陶磁器や土師器が出土し、17 世紀前半～中頃に属する。

#### S E 120 (第 11 図・図版 3)

調査区東部で検出された素掘りの井戸である。S K 90・121 に先行する。直径 1.6 mを測る。掘削面にボーリングステッキで確認したところ、深さは 2 m以上に及ぶと想定された。そのため、安全面を考慮し、1.5 mで掘削を止め、完掘には至っていない。埋土は上層に約 0.5 m極暗褐色土が堆積し、その下には黒褐色土が認められる。下層になるにつれて埋土のしまりが強い。遺物は近世陶磁器や土師器、石製品が出土し、17 世紀後半の所産が主体で、18 世紀前半まで及ぶ。

#### 土坑

#### S K 2 (第 11 図・図版 3)

調査区西端で検出された土坑である。平面は楕円形を呈し、規模は長辺 2.3 m、短辺 0.9 m、深さ 0.4 mを測る。埋土は、暗褐色土が主で、黄褐色土の粒や炭化物を含む。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦、石製品、金属製品が出土している。遺物の時期は、18 世紀後半から 19 世紀代に属する。

#### S K 4 (第 11 図・図版 3)

調査区西部で検出された土坑である。S D 3・6・7・20・39 や S K 40・44 に後出する。規模は、長さ 3.2 m、幅 2.6 m、深さ 0.6 mを測る。平面プランは隅丸長方形を呈し、底面はほぼ平坦である。埋土は、暗褐色土が主体で、黄色土ブロックや橙色土ブロック、炭化物を含んでいる。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、金属製品などが出土している。19 世紀後半に属する。

#### S K 13 (第 12 図・図版 3)

調査区南西部で検出された土坑である。平面は楕円形であり、規模は、長さ 2.9 m、幅 2.1 m、深さ 1.0 mを測る。遺構の南部には、4 段ほどのステップが確認される。埋土は、遺構の上層では暗褐色土が占めており、下層ではにぶい黄橙色土や橙色土が主である。下層になるにつれて、埋土がやや砂質になる。地山の崩落土も確認できる。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、金属製品、石製品が出土している。18 世紀後半に属する。

#### S K 14 (第 12 図・図版 3)

調査区北西部で検出された土坑である。遺構の大半は調査区外に伸びており、平面は楕円形を呈すると想定される。残存部分は、長さ 3.7 m、幅 1.0 m、深さ 0.5 mを測る。18 世紀後半から 19 世紀初頭に属する S D 29 に後出する。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、金属製品などが出土している。陶磁器の時期は、18 世紀後半から 19 世紀前半を示す。

#### S K 24 (第 12 図)

調査区西端で検出された土坑である。平面は楕円形を呈し、長さ 1.1 m、幅 0.5 m、最深部の深さは 0.3 mを測る。遺構の北部に若干のステップを持つ。遺物は、近世陶磁器や土師器の坂東寺焼の灰器などが出土している。遺物の時期は、19 世紀を示す。

#### S K 32 (第 12 図・図版 3)

調査区北西端で検出された土坑である。S D 3に先行し、S D 31・41に後出する。遺構の大半は調査区外に広がっており、平面形は不明である。遺構の規模は、長さ9.0 m、幅0.7 m、深さ1.0 mを測る。S D 31との先後関係から複数の遺構が重なっている可能性が高い。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、石製品、金属製品が出土している。陶磁器の時期は、下層は17世紀前半・上層は17世紀後半を示す。

#### S K 40 (第12図・図版3)

調査区西部で検出された土坑である。S K 4・44に先行し、S D 39・41に後出する。遺構の大半は他の遺構に切られているが、残存状況から平面形は楕円形を呈すると想定される。残存部は、長さ2.1 m、幅0.7 m、深さ0.5 mを測る。近世陶磁器や土師器、瓦片、石製品が出土している。陶磁器の時期は、17世紀後半から18世紀前半を示す。

#### S K 44 (第12図)

調査区北西端で検出された土坑である。S K 4に先行し、S K 40に後出する。遺構の大半は他の遺構と重複し、平面形は不明である。残存部分は長さ1.5 m、幅0.5 m、深さ0.5 mを測る。遺物は、近世陶磁器や土師器が出土している。陶磁器の時期は、17世紀～18世紀前半を示す。

#### S K 48 (第13図)

調査区中央部で検出された土坑である。S P 73に先行し、S D 77・S K 123・131に後出する。平面形はほぼ円形を呈する。遺構の規模は、長さ2.7 m、深さ0.6 mを測る。埋土は、黒褐色土が主で、粘質土を含んでいる。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦、石製品、金属製品が出土している。陶磁器の時期は、17世紀から19世紀後半を示すが、遺構の埋没時期としては19世紀後半といえる。

#### S K 49 (第13図)

調査区中央部で検出された土坑である。S K 52に先行し、S K 75・126・145・S X 81に後出する。平面形は楕円形を呈する。遺構の規模は、長軸2.7 m、短軸1.3 m、深さ0.35 mを測る。遺物は、近世陶磁器や土師器、石製品が出土している。陶磁器の時期は、17世紀から18世紀前半を示すが、遺構の重複関係より19世紀後半の埋没である。

#### S K 50 (第13図)

調査区中央部南端で検出された土坑である。遺構の南部は調査区外に広がり、なおかつ近代の攪乱に切られている。S K 51に後出する。遺構の規模は、長さ2.5 m、幅1.0 m、深さ0.5 mを測る。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦、石製品が出土している。陶磁器の時期は、19世紀後半を示す。

#### S K 51 (第13図)

調査区中央部で検出された土坑である。S K 123・131に先行し、遺構の南北端は残存しない。残存部分は、長さ1.2 m、幅1.1 m、深さ0.75 mを測る。出土遺物は、近世陶磁器や土師器、石製品であるが、大半が破片である。陶磁器の時期は、18世紀以降の時期を示す。

#### S K 59 (第14図・図版3)

調査区中央部で検出された土坑である。S K 70に先行し、S D 77・78・S K 75に後出する。

平面形は隅丸長方形を呈する。遺構の規模は、長軸 3.4 m、短軸 1.6 m、最深部の深さは 1.2 m を測る。遺構の南東部では、ステップが確認できる。埋土はほぼ平行に堆積しているが、ブロックや灰、炭化物を多く含んでいる。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦片、石製品、金属製品が出土している。陶磁器の時期は、上層が 18 世紀前半、下層が 17 世紀後半～18 世紀を示す。検出当初は S D 77 に後出すると判断していたが、遺物整理の結果、S D 77 に先行することが判明した。

#### S K 67 (第 14 図・図版 4)

調査区中央部北端で検出された土坑である。S K 66 に先行し、S K 123 に後出する。遺構の北端は調査区の外に伸びており、平面形はほぼ円形を呈すると想定される。遺構の規模は、長さ 2.7 m、幅 1.9 m、深さは最深部で 0.7 m を測る。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、石製品が出土しており、陶磁器の時期は、18 世紀後半を示す。

#### S K 70 (第 14 図)

調査区中央部南端で検出された土坑である。S K 59・144・S X 81 に後出する。楕円形を呈しており、遺構は、長軸 1.8 m、短軸 0.8 m、深さ 0.4 m を測る。遺物は、近世陶磁器や瓦質土器、瓦片、石製品が出土している。19 世紀後半。

#### S K 75 (第 14 図)

調査区中央部で検出された土坑である。S K 49・59 に先行し、S K 132 に後出する。平面形は隅丸方形あるいは楕円形を呈すると想定される。遺構の規模は、長さ 2.6 m、深さ 1.0 m を測る。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器が出土している。陶磁器の時期は、17 世紀から 18 世紀中頃を示す。

#### S K 78 (第 14 図)

調査区中央部で検出された土坑である。S K 82・126・129・135 に後出する。平面形は細長い楕円形を呈する。遺構の規模は、長さ 3.1 m、幅 1.1 m、深さ 0.3 m を測る。遺物は、磁器や土師器、石製品が出土しているが、ほとんどが細片で遺物の時期は不明である。遺構の重複関係より 19 世紀に属する。

#### S K 82 (第 15 図・図版 4)

調査区中央部で検出された土坑である。平面形は円形を呈する。S K 78・119 に先行し、S K 126・144 に後出する。遺構の規模は、長さ 2.4 m、深さ 0.8 m を測る。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦片が出土している。特記すべき遺物として、志野焼の鉢が出土している。遺物の時期は 16 世紀から 17 世紀後半である。

#### S K 93 (第 15 図・図版 4)

調査区中央部で検出された土坑である。S K 139 に後出する。平面は隅丸長方形を呈し、遺構南部に段をなしている。遺構の規模は、長さ 1.2 m、幅 1.1 m、深さ 0.5 m を測る。遺物は、近世陶磁器や太刀が出土している。遺構の先後関係から近代の遺構といえる。

#### S K 111 (第 15 図)



調査区東部で検出された土坑である。S K 100・130に先行し、S K 113に後出する。平面形は楕円形で、遺構の規模は、長さ2.2 m、幅1.9 m、深さ0.3 mを測る。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、石製品が出土しており、遺物の時期は19世紀後半である。

#### S K 113 (第15図)

調査区東部で検出された土坑である。S K 100・111・119に先行する。平面形は楕円形推定される。遺構の規模は、長さ1.3 m、幅1.9 m、深さ0.6 mを測る。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、石製品が出土している。検出当初はS K 124に先行すると判断していたが、遺物整理の結果、S K 124に後出することが判明した。遺物の時期は19世紀後半を示す。

#### S K 119 (第15図)

調査区東部で検出された土坑である。S K 110に先行し、S E 118・S K 82・113に後出する。平面形は楕円形で、遺構の規模は、長さ3.4 m、幅2.0 m、深さ0.6 mを測る。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、石製品が出土している。遺物の時期は19世紀後半である。

#### S K 121 (第15図・図版4)

調査区東部で検出された土坑である。S E 120に先行する。平面形は楕円形で、遺構は一辺2.4 m、深さ0.8 mを測る。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、石製品が出土している。遺物の時期は19世紀後半である。

#### S K 124 (第16図・図版4)

調査区東部で検出された土坑である。S K 100・130に先行する。平面形は隅丸方形で、遺構の規模は長さ2.3 m、幅2.1 m、深さ0.8 mを測る。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、石製品が出土している。検出当初はS K 113に後出すると判断していたが、遺物整理の結果、先行することが判明した。出土遺物の時期から、17世紀後半～18世紀後半に収まると推測される。

#### S K 126 (第16図)

調査区中央部で検出された土坑である。S K 49・52・78・82に先行し、S K 135に後出する。平面形は楕円形と呈すると想定される。遺構の残存部分は長さ2.5 m、幅1.3 m、深さ0.5 mを測る。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、石製品が出土している。遺物の時期は、17世紀後半に属する。

#### S K 127 (第16図)

調査区東北端で検出された土坑である。S K 130に先行する。遺構の南部は調査区外にのび、北部は他遺構に切られているため、平面形は不明である。残存部分は、長さ1.1 m、幅2.6 m、深さ0.7 mを測る。遺構の東部にはステップが確認できる。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、石製品が出土している。19世紀後半の所産である。

#### S K 129 (第16図)

調査区中央部で検出された土坑である。S K 78・132に先行し、S K 131に後出する。遺構は細長い楕円形を呈し、長さ1.9 m、幅0.9 m、深さ0.6 mを測る。白磁碗や土師器細片が出土した。

#### S K 130 (第 16 図・図版 4)

調査区東部で検出された土坑である。S K 100 に先行し、S K 111・124・127 に後出する。平面形は隅丸長方形で、遺構の規模は、長辺 2.7 m、短辺 1.9 m、深さ 1.6 m を測る。遺構の東部にステップを有する。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、石製品が出土している。陶磁器の時期は 19 世紀後半に属する。

#### S K 131 (第 17 図・図版 4)

調査区中央部で検出された土坑である。S P 73・S K 48・123・132 に先行し、S K 129 に後出する。遺構の規模は、長さ 4.4 m、最大幅 2.4 m、深さ 1.2 m を測る。遺構の南部にステップをもち、底面は窪みが確認できる。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、石製品が出土しており、17 世紀後半以降を示している。

#### S K 135 (第 17 図)

調査区中央部で検出された土坑である。S K 78・126 に先行する。平面は細長い楕円形をしており、遺構の規模は、長さ 1.8 m、幅 0.5 m、深さ 0.4 m を測る。検出当初は S K 126 に先行すると判断していたが、遺物整理の結果、後出することが判明した。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦が出土しており、時期は 19 世紀を示す。

#### S K 139 (第 17 図・図版 4)

調査区東部で検出された土坑である。S K 93 に先行し、S K 116 に後出する。遺構の北部は調査区の外に拡がっており、平面形は不明である。残存部分は長さ 2.8 m、幅 0.8 m、深さ 1.1 m を測る。出土遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦、石製品で、17 世紀後半から 18 世紀前半を示す。

#### S K 144 (第 17 図)

調査区中央部で検出された土坑である。S K 48・70・82・131・132 に先行し、S K 129 に後出する。残存する遺構の規模は、長さ 2.6 m、幅 1.4 m、深さ 0.3 m を測る。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、石製品が出土している。詳細な時期決定は難しいが、遺構の先後関係から 17 世紀後半以降 19 世紀後半には収まると考えられる。

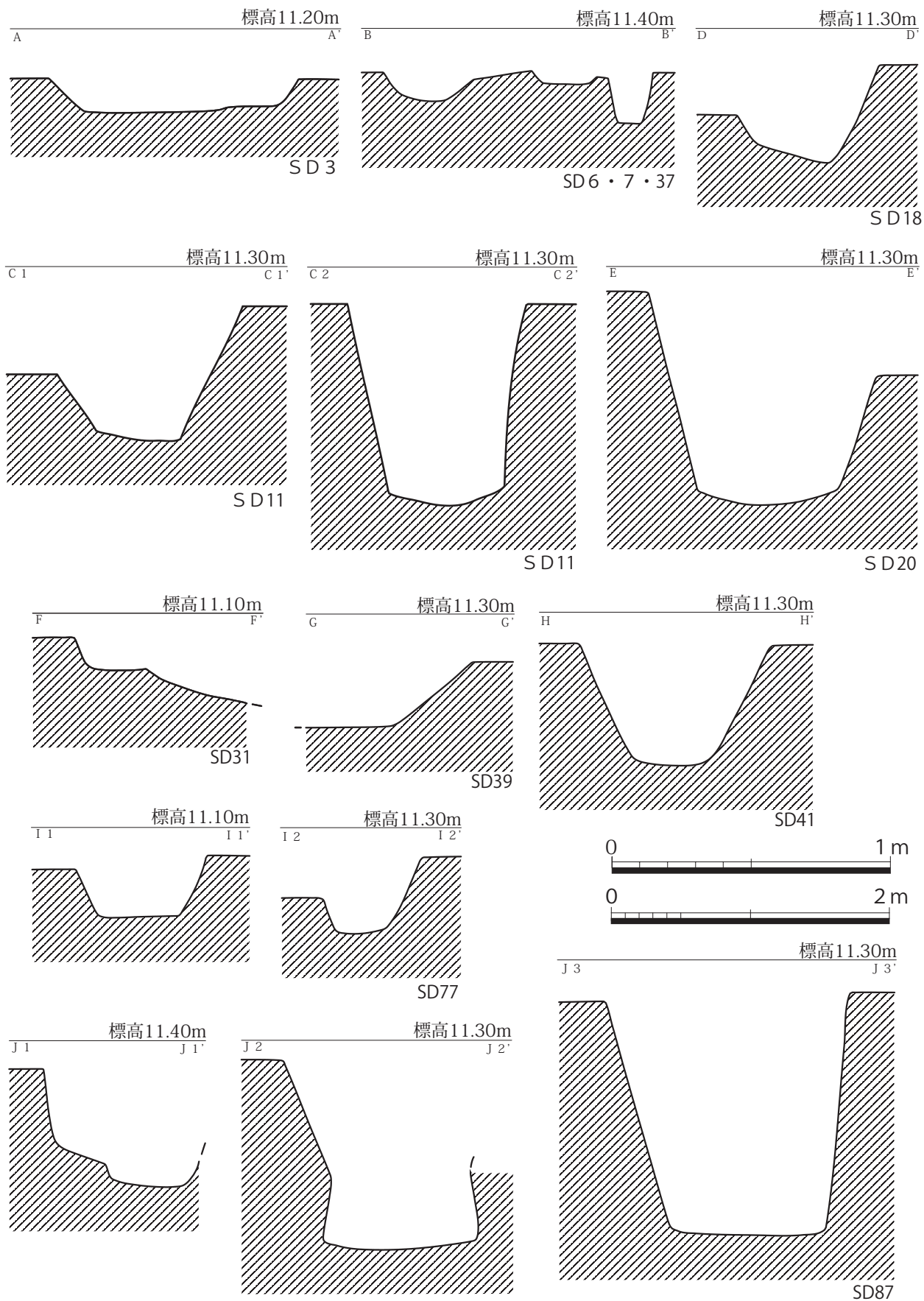
#### S K 145 (第 17 図)

調査区中央部で検出された土坑である。S K 48・49・129 に先行し、S K 129 に後出する。残存する遺構の規模は、長さ 2.3 m、幅 0.8 m、深さ 0.3 m を測る。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器などが出土している。遺構の先後関係より 17 世紀後半以降 19 世紀後半と推定される。

#### その他の遺構

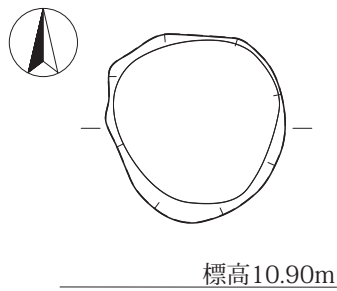
#### S X 81 (第 17 図)

調査区中央部南端で検出された遺構である。溝状の遺構は緩やかなカーブを描いており、長さ 3.7 m、最大幅 0.5 m、深さ 0.2 m を測る。S K 49・70 に先行し、S K 144・145 に後出する。遺物は、近世陶磁器や土師器、瓦質土器、瓦、石製品が出土している。遺物の時期は 19 世紀後半を示す。

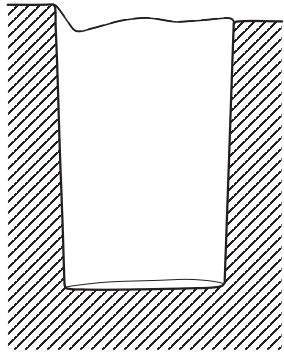


第10図 SD 3・6・7・37・11・18・20・31・39・41・77・87 断面図  
 (SD 3・11・18・20・31・39・41は1/40、それ以外は1/60)

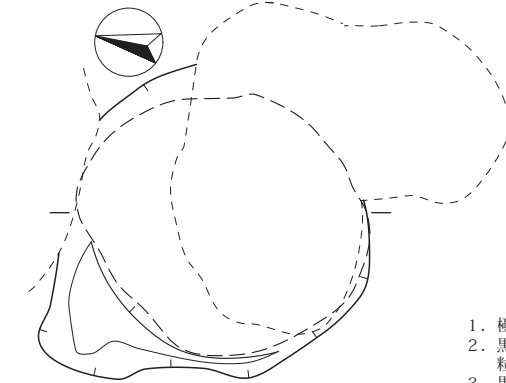




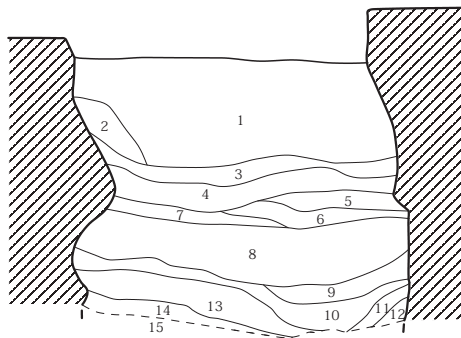
標高10.90m



SE 118

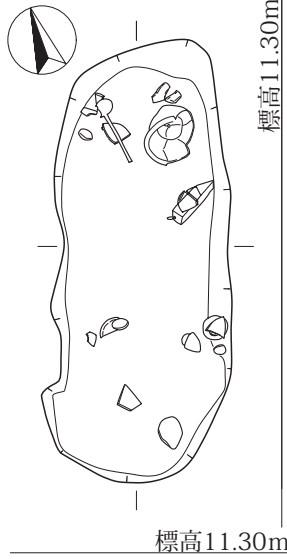


標高11.10m



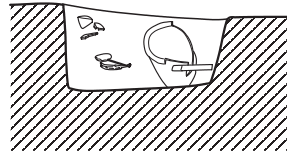
SE 120

1. 極暗褐色土。ブロックを含む。
2. 黒褐色土。0.5~1.0cm大の明褐色・褐色・黒褐色の粒を含む。
3. 黒褐色土+褐色土。
4. 黒褐色土。0.5~1.0cm大の黄褐色土・2.0~3.0cm大の褐色土の粒を含む。
5. 黒褐色土。0.5~1.0cmの黄褐色土・1.0~2.0cm大の黒色土の粒含む。
6. 黒褐色土。10.0cm大の灰褐色土・1.0~5.0cm大の褐色土ブロックおよび粒を含む。
7. 黒褐色土+褐色土。
8. 黒色土。0.5cm大の橙色土・1.0cm大の礫を含む。1.0cm大の炭化物・鉄分を少量含む。
9. 黒色土。1.0cm大の黒褐色土・褐色土ブロック・炭化物を含む。
10. 黒色土。1.0~5.0cm大の黄褐色土・1.0cm大の黒色土ブロックを含む。
11. 黄褐色土。
12. 黒褐色土。1.0cm大の暗褐色土ブロックを含む。
13. 黒褐色土。0.5cm大の赤褐色・0.5~3.0cm大の明褐色の粒およびブロックを含む。
14. 橙色土。粘り気強い。1.0~2.0cm大の浅黄橙色砂質ブロックを含む。
15. 黄褐色土+黄褐色土。粘り気強い。

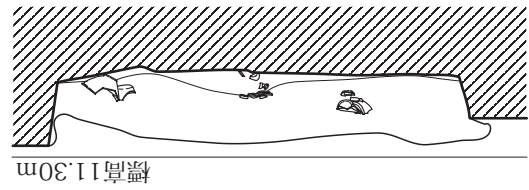


標高11.30m

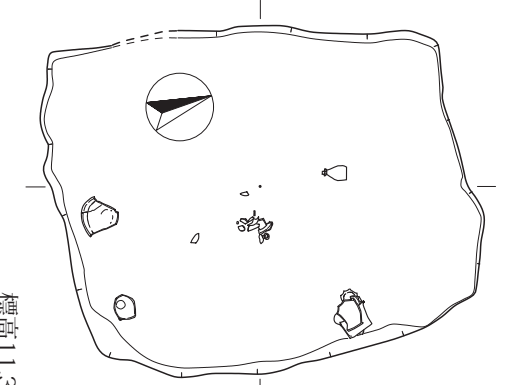
標高11.30m



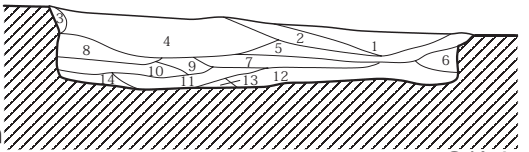
SK 2



標高11.30m



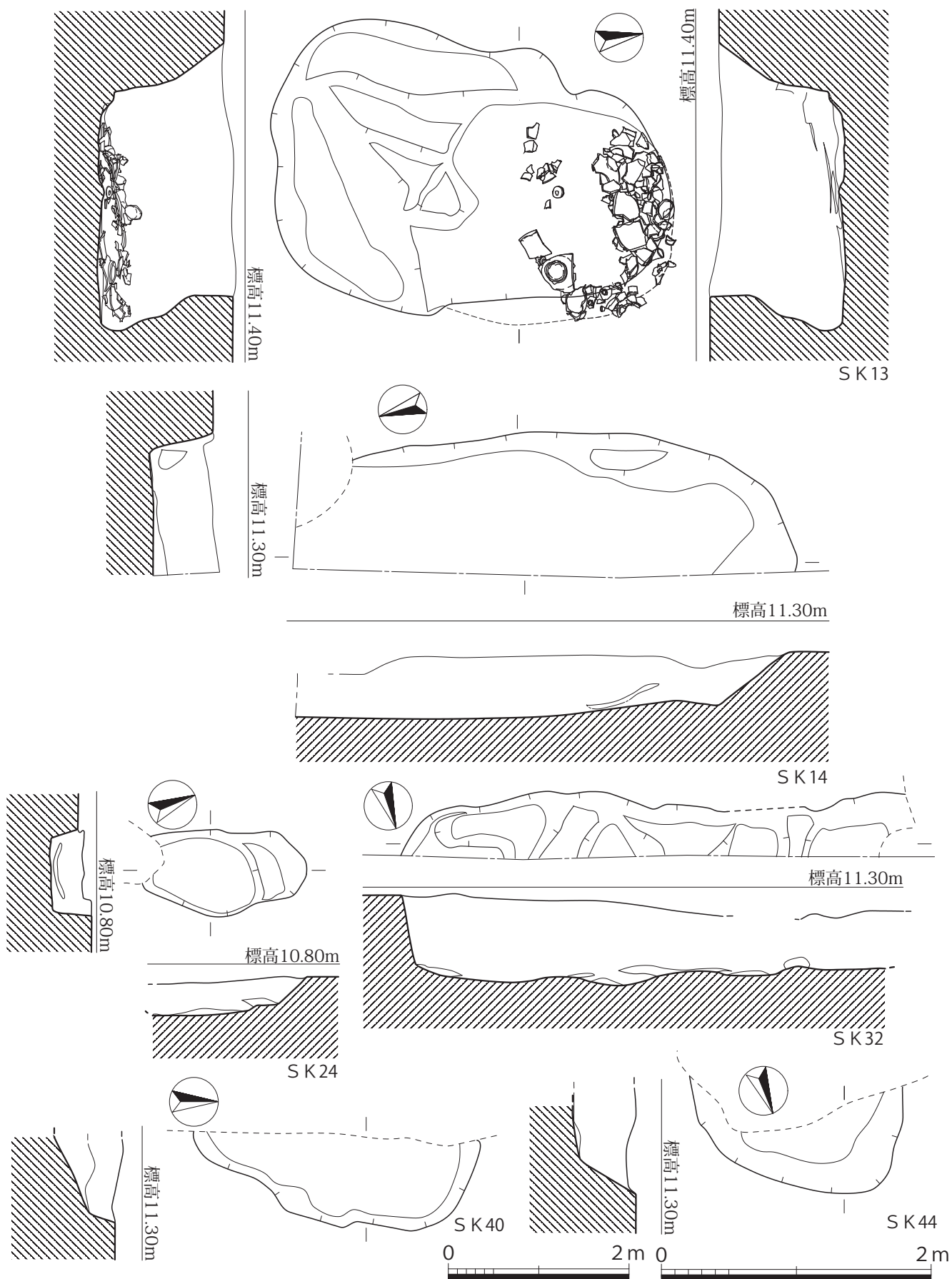
標高11.30m



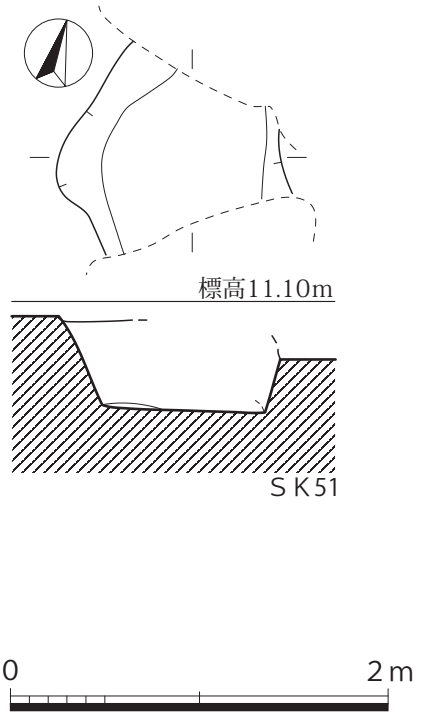
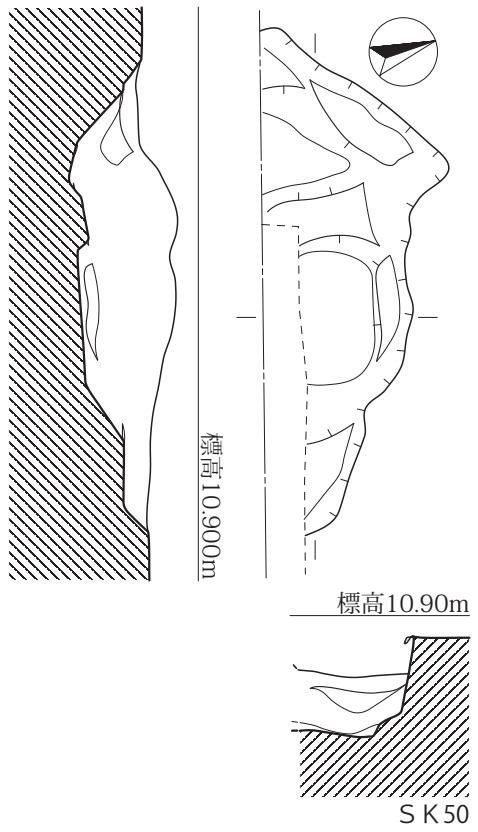
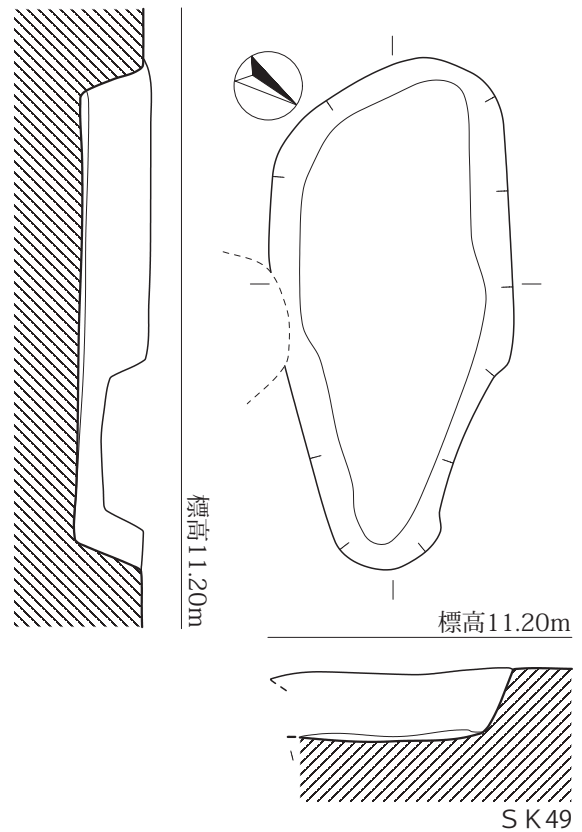
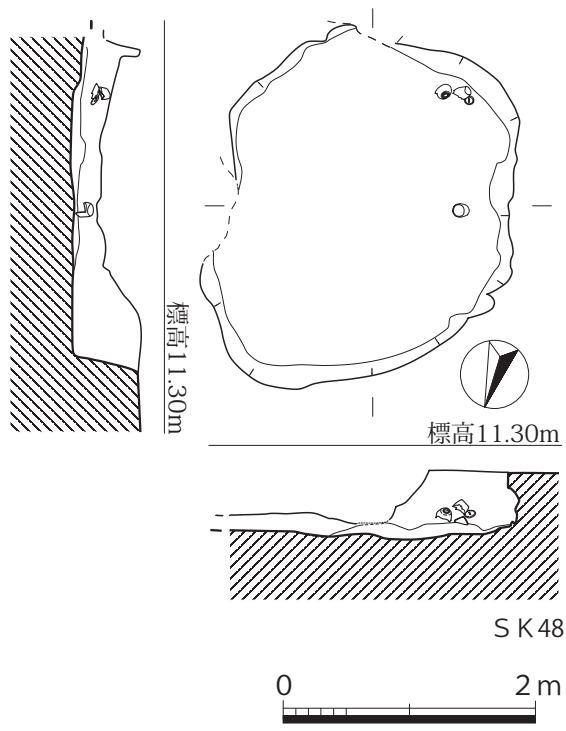
SK 4

1. 暗褐色。2.0~5.0cmの礫・炭化物を含む。しまりあり・固い。
2. 暗褐色。陶磁器・黄色土ブロック・炭化物を含む。しまりあり・固い。
3. 地山ブロック。
4. 暗褐色土・2.0~20.0cm大の礫と黄色土ブロックを含む。しまりあり・固い。
5. 暗褐色土。5.0cm大の礫・炭化物含む。しまりあり・固い。
6. 暗褐色土。黄色土ブロックを含む。しまりあり・固い。
7. 暗褐色土。橙色土ブロックを含む。しまりあり・固い。
8. 第7層と同一。
9. 暗褐色土。橙色土ブロックを多く含む。しまりあり・固い。
10. 暗褐色土。炭化物を多く含む。しまりあり・固い。
11. 暗褐色土。陶磁器・黄色土ブロックを含む。しまりあり・固い。
12. 暗褐色土。5.0cm大の礫と炭化物を含む。
13. 地山ブロック。
14. 第12層と同一。

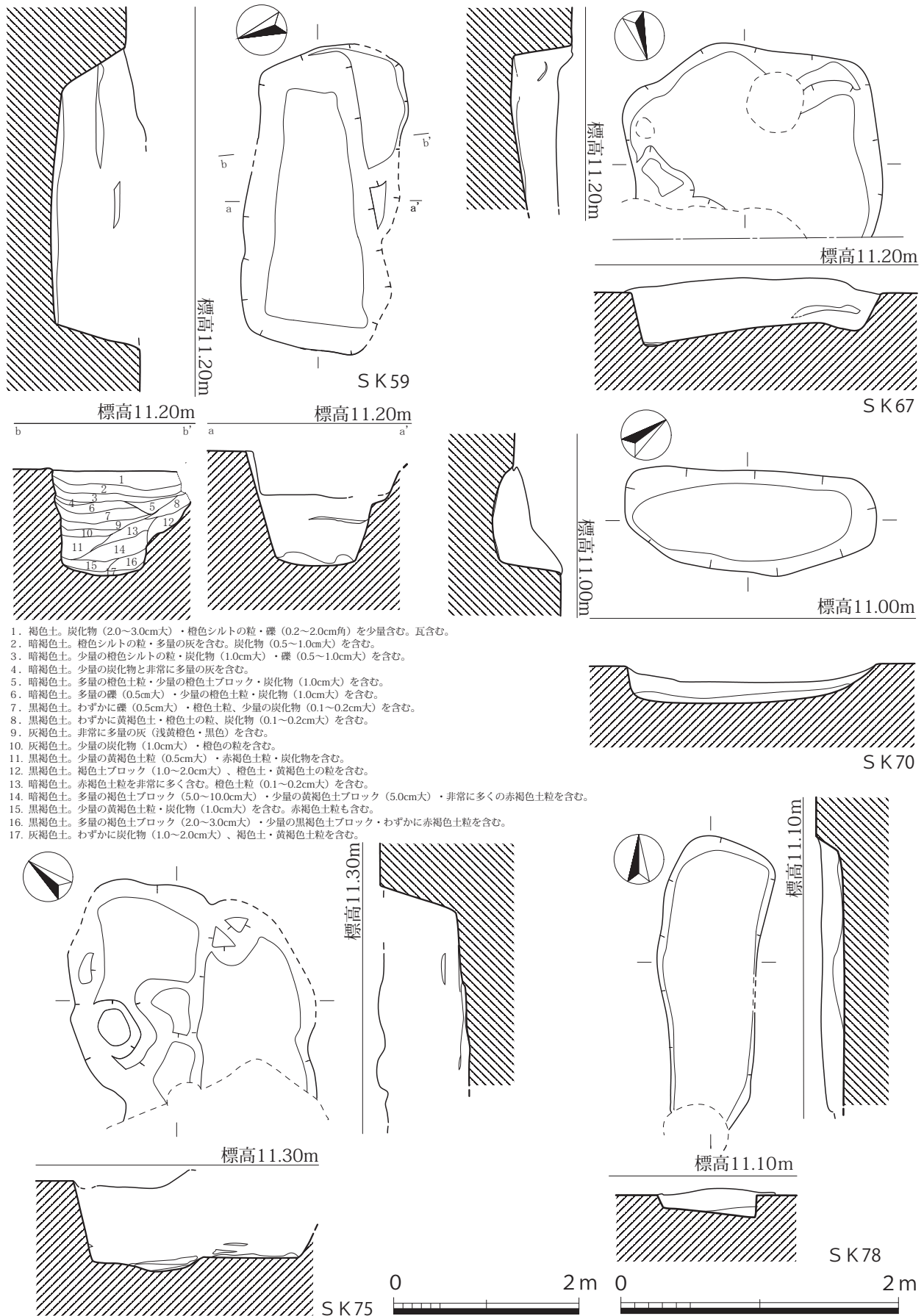
第11図 SE 118・120・SK 2・4実測図 (SK 4は1/60、それ以外は1/40)



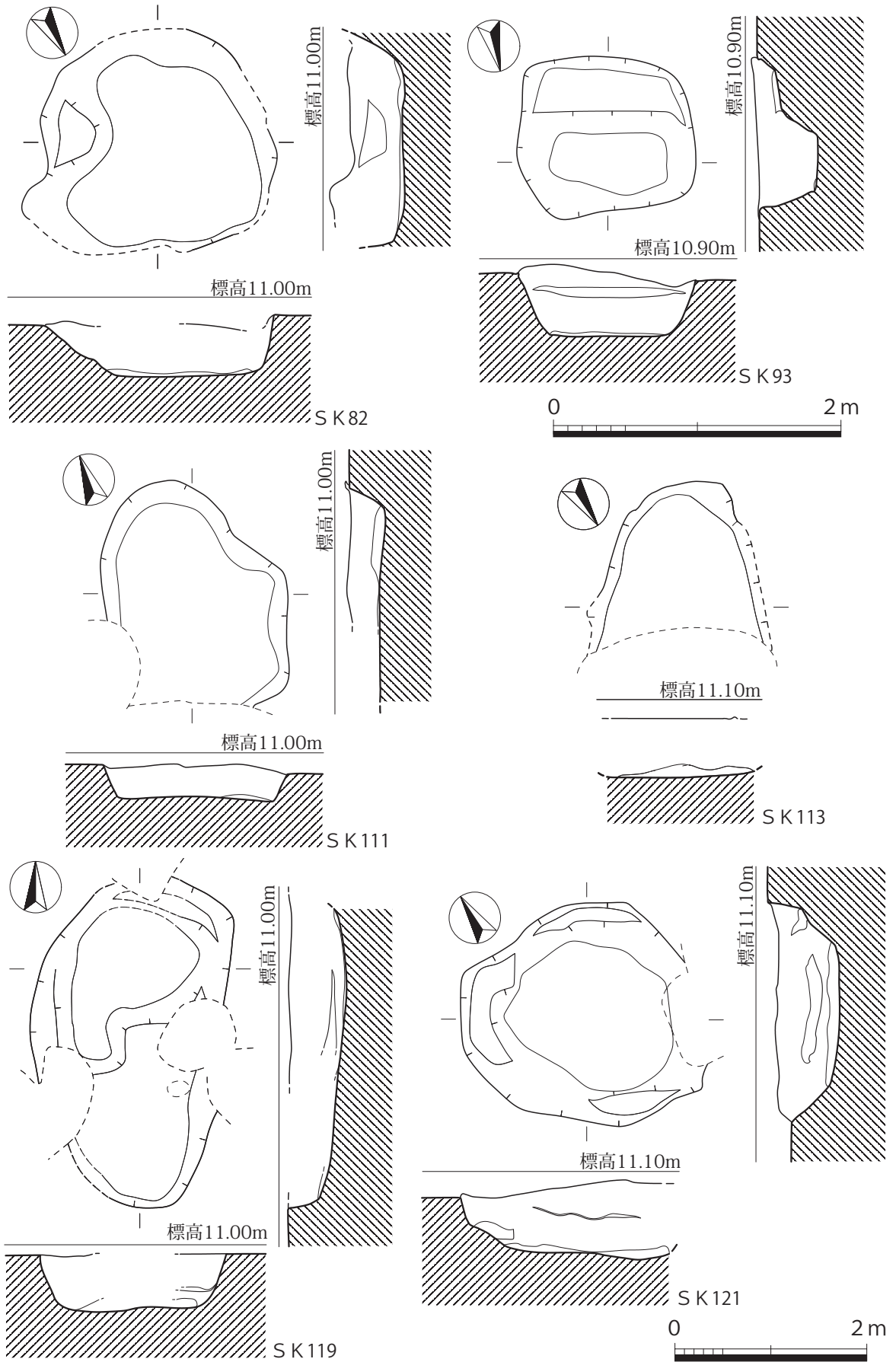
第12図 SK 13・14・24・32・40・44実測図 (SK 32は1/60、それ以外は1/40)



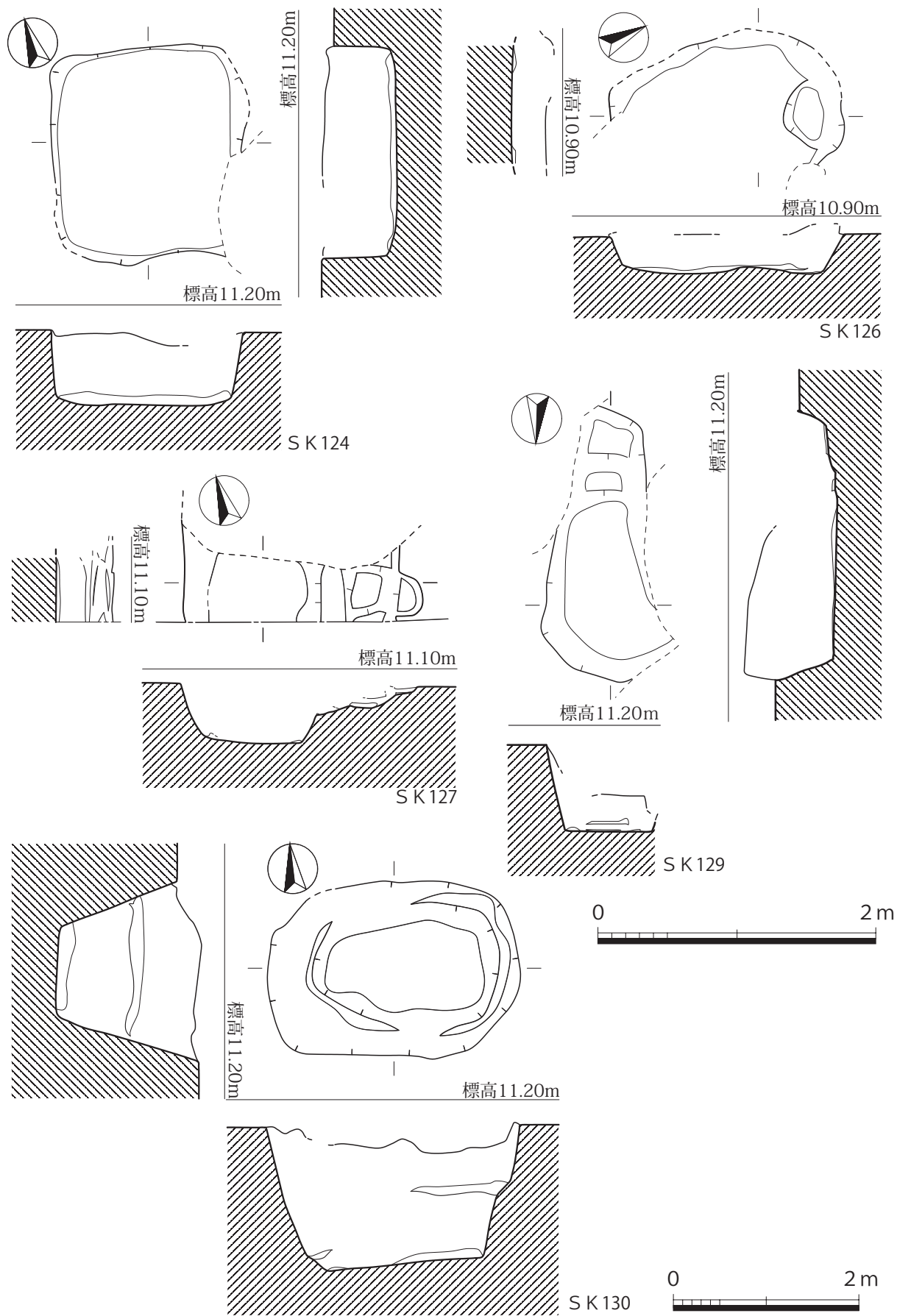
第13図 SK 48・49・50・51 実測図 (SK 48は1/60、それ以外は1/40)



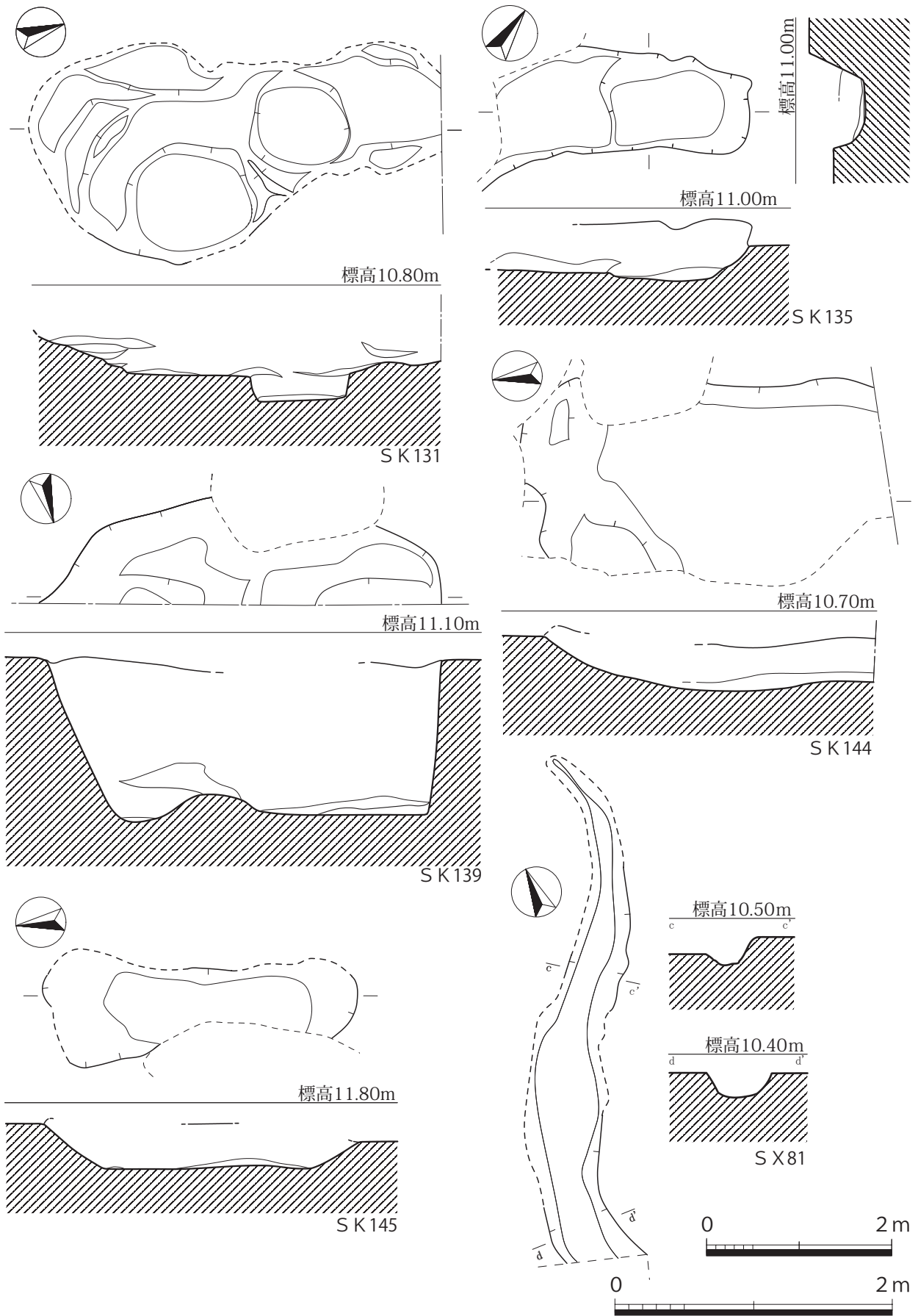
第14図 SK 59・67・70・75・78実測図（SK 70は1/40、それ以外は1/60）



第15図 SK 82・93・111・113・119・121実測図 (SK 93は1/40、それ以外は1/60)



第16図 SK124・126・127・129・130実測図 (S K 129は1/40、それ以外は1/60)



第17図 SK 131・135・139・144・145・SX 81 実測図 (SK 131は1/60、それ以外は1/40)

## 2. 出土遺物

今回の調査では、パンコンテナー 45 箱分の遺物が出土した。遺物は近世陶磁器を中心に、土師器や瓦質土器、瓦、金属製品、ガラス製品などが出土している。出土量は、18～19世紀の陶磁器が最も多く、次いで17世紀の陶磁器が出土している。法量など詳細な内容については、遺物観察表を参照願いたい。

第1表 遺物観察表1

図版	遺物 No.	出土遺構	種別	器種	法量			染付軸藁	装飾・調整			底面・高台内印銘 <sup>α,β</sup>	特徴	備考	登録番号
					口径(長)	底径(幅)	器高(厚)		外面	内面	見込み				
図版5	1	SD3	磁器	碗	—	3.2	(2.0)	染付	椿・牡丹			「朝」	朝麦焼		201805000030
図版5	2	SD3	磁器	碗蓋	(11.2)	4.1	2.6	染付	鋸歯・牡丹唐草	草花・虫		二重圏線・昆虫	広東碗		201805000035
図版5	3	SD3	磁器	盃	5.5	1.6	2.6	染付	撫子・線描き						201805000031
図版5	4	SD3	磁器	皿	13.7	9.0	3.6	染付	蔓草	牡丹唐草		蛇ノ目凹型高台			201805000032
図版5	5	SD3	陶器	皿	—	3.8	2.2	藁灰			蛇ノ目軸はぎ 染付「寺」				201805000038
図版5	6	SD20	磁器	碗	—	3.9	(2.3)	染付	圏線	草花・圏線		「宣明」		17世紀後半	201805000269
図版5	7	SD20	磁器	皿	(15.0)	(7.0)	(2.3)	染付		葉		圏線	口縁部イゲ緑	1640年代	201805000270
図版5	8	SD20	陶器	碗	(12.4)	6.0	7.0	灰釉	山			高台無軸	京焼風		201805000272
図版5	9	SD20	陶器	皿	—	4.8	(2.2)	褐釉				砂目痕4か所	兜巾		201805000273
図版5	10	SD20	陶器	掃鉢	(31.0)	—	(5.9)	褐釉					口縁のみ施釉	17世紀後半	201805000275
図版5	11	SD31	磁器	碗	—	(3.0)	(2.2)	染付	若松						201805000358
図版5	12	SD31	磁器	碗	—	—	(5.0)	染付	竹・圏線・宝	圏線・四方禪	宝				201805000357
図版5	13	SD39	磁器	蓋物	(7.2)	—	(4.8)	染付	団扇・瓢箪	蛇ノ目軸はぎ					201805000424
図版5	14	SD39	磁器	碗	(10.2)	4.2	5.7	染付	山水			畳付軸かき			201805000423
図版5	15	SD41	磁器	皿	(14.2)	7.9	2.4	白磁					イゲ緑		201805000456
図版5	16	SD41	磁器	碗	8.5	3.6	4.5	染付	二重圏線・牡丹						201805000453
図版5	17	SD41	陶器	碗	13.5	5.6	4.8	褐	山水			陰刻「清水」 露胎	京焼風	17世紀後半	201805000457
図版5	18	SD41	陶器	皿	12.4	4.3	3.3	藁灰 銅緑			蛇ノ目軸はぎ 砂目痕	露胎・兜巾			201805000458
図版5	19	SD41	陶器	皿	(14.4)	4.4	3.3	藁灰 鉄			蛇ノ目軸はぎ 砂目痕	一部露胎・兜巾			201805000459
図版5	20	SD41	陶器	皿	13.9	5.0	3.0	灰釉			蛇ノ目軸はぎ	露胎・兜巾			201805000460
図版5	21	SD41	陶器	片口鉢	21.1	8.3	10.7	鉄				露胎	肥前系 口縁玉緑	17世紀末	201805000461
図版5	22	SD77	磁器	碗	(10.9)	4.5	5.6	染付	山水・東屋・霞		岩波・三足ハマ痕	畳付無軸	端反碗		201805000821
図版5	23	SD77	磁器	碗	(11.9)	5.5	5.9	染付	雲龍	雲	雲	変形字・畳付無軸	端反碗		201805000841
図版5	24	SD77	磁器	碗	9.0	4.4	6.4	染付	山水・東屋・雨籠	二重圏線					201805000845
図版5	25	SD77	陶器	瓶	—	4.8	4.5	褐色					墨書「宅」		201805000848
図版5	26	SD77	土師器	火鉢	26.5	18.4	7.6	赤褐 橙	ナデ・ハケ目	ハケ目・ナデ			粘土磨残存 口縁部赤色塗料		201805000851
図版6	27	SD87	磁器	碗	(10.0)	—	(5.4)	染付	圏線・草花						201805000917
図版6	28	SD87	磁器	碗	(10.6)	—	(5.8)	染付	草花・圏線					17世紀	201805000945
図版6	29	SD87	磁器	碗	(10.2)	—	(5.2)	染付	柳・圏線						201805000946
図版6	30	SD87床面	磁器	碗	—	(4.4)	6.4	染付	草花・二重圏線 口錆	二重圏線		砂目痕	初期伊万里		201805000965
図版6	31	SD87	磁器	碗	(9.2)	—	(4.9)	白磁					口錆	17世紀	201805000920
図版6	32	SD87	磁器	碗	(9.0)	—	(5.4)	青磁						1640～1650	201805000938
図版6	33	SD87	磁器	碗	—	—	(2.2)	染付	錆削り					1610～1630	201805000942
図版6	34	SD87	磁器	皿	(12.2)	—	(1.3)	染付		吹き墨			口錆		201805000919
図版6	35	SD87	磁器	皿	(12.2)	—	(2.4)	染付		花卉・吹き墨			口錆		201805000943
図版6	36	SD87	磁器	皿	(12.2)	—	(1.1)	染付		花卉・吹き墨			口錆		201805000948
図版6	37	SD87	磁器	水指 <sup>カ</sup>	—	6.2	(11.1)	青磁	雲龍・唐草						201805000951
図版6	38	SD87	陶器	碗	(9.8)	5.0	8.1	褐				兜巾・露胎	二次焼成著しい		201805000952
図版6	39	SD87床面	陶器	碗	12.5	5.1	7.8	藁灰				砂目痕・兜巾	呉器手	17世紀前半	201805000966
図版6	40	SD87	陶器	皿	(16.2)	5.1	4.3	灰			砂目痕4か所	兜巾	溝縁皿・貫入		201805000956
図版6	41	SD87床面	陶器	皿	14.8	4.6	3.2	灰			砂目痕4か所	兜巾		17世紀	201805000968



第2表 遺物観察表2

図版	遺物No.	出土遺構	種別	器種	法量			染付 釉薬	装飾・調整			底面・高台内印跡 <sup>※</sup>	特徴	備考	登録 番号
					口径(長)	底径(幅)	器高(厚)		外面	内面	見込み				
図版6	42	SD87	陶器	皿	(14.0)	4.7	3.5	灰			砂目痕3か所	兜巾			201805 000934
図版6	43	SD87	陶器	皿	12.8	4.4	3.5	褐			砂目痕4か所	兜巾・露胎	溝縁皿		201805 000954
図版6	44	SD87	陶器	皿	(14.2)	5.2	3.1	透明			砂目痕5か所	兜巾			201805 000932
図版6	45	SD87	陶器	水滴	—	4.1	(5.1)	灰	穿孔				鳥形		201805 000961
図版6	46	SD87	陶器	小壺	(10.2)	4.9	10.2	褐				糸切り	胴部径(12.0)cm		201805 000957
図版6	47	SD87	陶器	不明	(4.3)	(2.3)	(0.4)	藁灰 鉄赤 <sup>※</sup>							201805 000962
図版6	48	SD87	陶器	香炉	(13.0)	(6.0)	6.5	鉄	刷毛目				露胎	1650~1690	201805 000928
図版6	49	SD87	土師器	火入	(14.2)	10.2	5.3		ナデ・ミガキ	ハケ目					201805 000963
図版6	50	SD87床面	陶器	播鉢	(39.0)	11.6	15.1	鉄	ナデ・ユビオサエ	ハケ目		糸切り	口縁部のみ施釉		201805 000972
図版6	51	SD87床面	土師器	焙烙	34.5	23.1	7.3		ナデ・ハケ目	ナデ			スス付着		201805 000975
図版7	52	SD87	瓦質土器	火鉢	(40.5)	(32.5)	12.1		ナデ・ハケ目 ヘラケズリ	ナデ・ハケ目		脚2か所	最大径(47.0)cm		201805 000930
図版7	53	SE118	磁器	碗	(10.6)	—	(4.2)	染付	菊				コンニャク印判	18世紀	201805 001149
図版7	54	SE118	磁器	碗	—	3.4	(4.9)	鉄・染付		草花					201805 001148
図版7	55	SE118	磁器	皿	(21.4)	(14.0)	3.5	染付	圏線	花卉・二重圏線			輪花皿		201805 001151
図版7	56	SE118	磁器	仏飯具	(6.2)	3.5	5.9	染付	丸・圏線			畳付無釉			201805 001152
図版7	57	SE120	磁器	碗	(11.6)	(3.8)	4.3	染付	二重圏線・圏線 葉唐草	二重圏線	寿	兜巾	明染		201805 001204
図版7	58	SE120	陶器	播鉢	(30.8)	—	(5.7)	鉄		刷毛目			口縁のみ施釉	~17世紀	201805 001209
図版7	59	SK2	磁器	碗	8.6	—	(4.9)	染付	牡丹	四方禪					201805 000009
図版7	60	SK2	磁器	碗	8.4	3.2	5.2	染付	若松・鶴 二重圏線・圏線	四方禪・二重圏線 圏線	五弁花・二重圏線		コンニャク印判	18世紀後半	201805 000008
図版7	61	SK2	磁器	碗	11.9	4.2	6.8	青磁染付		四方禪	二重圏線・五弁花		コンニャク印判		201805 000011
図版7	62	SK2	磁器	段重	12.2	7.3	5.2	染付	窓絵に山水 東屋・帆船					19世紀後半	201805 000010
図版7	63	SK2	陶器	碗	(9.0)	—	(5.6)	鉄							201805 000014
図版7	64	SK2	陶器	碗	8.7	—	(5.2)	褐・白泥	花・よこしま・進弁						201805 000015
図版7	65	SK2	陶器	水注	7.1	3.8	3.7	灰	陽刻「木山」・草花				露胎	18世紀後半	201805 000016
図版7	66	SK2	陶器	灯明皿	7.5	4.3	3.1	鉄					糸切		201805 000020
図版7	67	SK2	陶器	灯明皿	8.5	4.0	2.8	鉄					糸切	受け部分のみ無釉	201805 000021
図版7	68	SK2	土師器	灯明皿	—	2.5	1.6						型押し成形・油煙付着		201805 000022
図版7	69	SK2	陶器	植木鉢	(32.0)	16.8	21.8	褐	白土化粧 ウサギ貼り付け			脚部3か所 焼成前穿孔	高取焼系		201805 000019
図版7	70	SK4	磁器	碗	9.6	4.0	5.2	染付	山水・帆船・霞			岩波	端反碗		201805 000041
図版7	71	SK4	磁器	湯呑	7.2	3.8	5.6	染付	草花・蝙蝠	雷					201805 000049
図版7	72	SK4	磁器	湯呑	7.0	3.2	5.1	染付	唐人・鯛・変形字						201805 000046
図版7	73	SK4	磁器	湯呑	4.6	3.5	5.3	染付	牡丹・草		波	二重圏線			201805 000060
図版7	74	SK4	磁器	蓋	8.7	3.6	2.4	染付	桜・柳歯	墨弾き・太湖石 圏線・草花	変形字・圏線		端反碗		201805 000056
図版7	75	SK4	磁器	小碗	6.4	3.0	3.5	染付	帯・草花						201805 000051
図版7	76	SK4	磁器	皿	(13.2)	7.1	3.1	染付	圏線・唐草	圏線・二重圏線	五弁花 (コンニャク印判)		くらわんか		201805 000063
図版7	77	SK4	磁器	小皿	9.4	4.7	2.2	染付		草花	三足ハマ痕				201805 000064
図版7	78	SK4	陶器染付	皿	—	(12.0)	(1.3)	染付	二重圏線	芙蓉手・花・月桂樹				17世紀後半	201805 000066
図版7	79	SK4	磁器	蓋	7.8	—	2.7	染付	窓絵に花卉 橋形つまみ						201805 000070
図版7	80	SK4	磁器	蓋	8.4	—	3.4	染付	圏線・花卉 橋形つまみ				橋形つまみ		201805 000071
図版7	81	SK4	磁器	蓋物	—	(9.6)	3.1	染付	草花・鋸歯・圏線			渦福・圏線			201805 000069
図版7	82	SK4	磁器	蓋物	9.2	4.8	5.4	染付	帯・草花		太極図		口縁部のみ無釉		201805 000042
図版8	83	SK4	磁器	碗	8.1	3.6	5.3	白磁							201805 000079
図版8	84	SK4	磁器	小壺	1.4	3.1	8.8	染付	草花					19世紀	201805 000068
図版8	85	SK4	磁器	散連華	(4.9)	4.3	—	染付		松					201805 000075
図版8	86	SK4	磁器	餌鉢	5.6	3.5	2.4	白磁					型押し		201805 000084
図版8	87	SK4	磁器	水滴	—	4.0	4.5	白磁	菊				型押し		201805 000086
図版8	88	SK4	磁器	碗	11.8	—	(5.0)	青磁染付		四方禪・二重圏線 圏線					201805 000045

第3表 遺物観察表3

図版	遺物No.	出土遺構	種別	器種	法量			染付軸楽	装飾・調整			底面・高台内印跡 <sup>○</sup>	特徴	備考	登録番号	
					口径(長)	底径(幅)	器高(厚)		外面	内面	見込み					
図版8	89	SK4	磁器	蓋物	12.0	—	(6.8)	白磁	鉄軸	内面軸かき					201805000082	
図版8	90	SK4	磁器	円筒碗	(6.0)	—	(4.5)	白磁	帯(鉄軸)				口銘 胴部径(8.0)cm		201805000081	
図版8	91	SK4	陶器	碗	9.6	3.1	5.0	褐							201805000087	
図版8	92	SK4	陶器	碗	(9.8)	4.4	4.9	灰	山水				露胎・陰刻「雲」	京焼風	201805000089	
図版8	93	SK4	陶器	碗	—	(5.6)	(3.1)	灰					露胎 陰刻「□原□」	京焼風	201805000090	
図版8	94	SK4	陶器	皿	11.6	4.4	3.1	褐	蛇ノ目軸はぎ				露胎		201805000092	
図版8	95	SK4	陶器	油瓶	2.1	8.6	19.3	褐							18世紀後半	201805000095
図版8	96	SK4	陶器	油瓶	—	9.0	(20.8)	褐	草花				墨書「キ」		201805000094	
図版8	97	SK4	陶器	片口鉢	22.0	8.7	11.2	褐						肥前系	201805000099	
図版8	98	SK4	陶器	播鉢	36.5	12.4	14.5	褐	回転ナデ	ハケ目					201805000098	
図版8	99	SK4	陶器	植木鉢	30.0	18.8	19.8	褐	白土化粧						201805000100	
図版8	100	SK4	陶器	土瓶蓋	5.9	—	3.9	透明							101とセット	201805000102
図版8	101	SK4	陶器	土瓶	7.5	7.5	10.2	透明					露胎・スス付着		100とセット	201805000101
図版8	102	SK4	土師器	坏	11.0	6.0	1.5		ナデ	ナデ・ミガキ				内曇り	201805000109	
図版8	103	SK4	陶器	窯道具	6.2	—	0.5	褐					露胎		201805000116	
図版8	104	SK4	瓦	平瓦	(8.7)	(6.5)	(1.7)	橙	陰刻「C」						201805000115	
図版9	105	SK13	磁器	碗	9.8	4.0	5.2	染付	菊・圏線・五葉若葉		圏線	「大明□」	くらわんか コンニャク印判		201805000139	
図版9	106	SK13	磁器	碗	8.0	3.2	4.3	染付	菊・葉・圏線		圏線		くらわんか コンニャク印判		201805000141	
図版9	107	SK13	磁器	碗	8.6	3.4	4.6	染付	桐				コンニャク印判		201805000145	
図版9	108	SK13	磁器	碗	7.8	3.3	5.0	染付	藤				コンニャク印判		201805000148	
図版9	109	SK13	磁器	皿	14.5	7.5	4.0	染付	唐草・圏線 二重圏線	唐草・二重圏線	五弁花	「大明年製」	コンニャク印判	18世紀前半 ～中頃	201805000150	
図版9	110	SK13	磁器	皿	13.4	(8.0)	3.8	染付	唐草・圏線	圏線・二重圏線 牡丹唐草		「大明成化年□」 ハリ痕			201805000151	
図版9	111	SK13	磁器	皿	(12.6)	7.2	3.1	染付	圏線	圏線・唐草	五弁花		くらわんか コンニャク印判		201805000152	
図版9	112	SK13	磁器	瓶	4.0	—	(12.5)	染付	竹・鉄(帯)				くらわんか		201805000156	
図版9	113	SK13	磁器	花生	9.9	7.0	18.0	青磁					盤口形	18世紀	201805000177	
図版9	114	SK13	磁器	鬚盥	13.5	7.3	3.1	鉄	斜め格子				露胎		201805000172	
図版9	115	SK13	磁器	仏飯具	7.3	3.5	4.7	染付	圏線				くらわんか		201805000158	
図版9	116	SK13	磁器	鉢	11.8	6.2	4.8	白磁							201805000171	
図版9	117	SK13	磁器	碗	7.6	2.9	4.6	白磁					畳付軸はぎ	口銘	201805000162	
図版9	118	SK13	磁器	小皿	8.6	3.9	2.7	白磁						口銘	201805000170	
図版9	119	SK13	磁器	猪口	5.4	3.0	3.9	白磁					畳付軸はぎ	口銘	201805000166	
図版9	120	SK13	磁器	手塩皿	(6.3)	4.6	1.5	染付		蝶				糸切細工成型	201805000154	
図版9	121	SK13	磁器	小碗	5.4	3.0	3.9	白磁							201805000164	
図版9	122	SK13	磁器	猪口	4.5	2.1	2.7	白磁							201805000168	
図版9	123	SK13	磁器	紅皿	5.7	3.8	1.1	白磁							201805000173	
図版9	124	SK13	陶器	碗	10.3	4.6	7.6	褐	白土化粧・刷毛目	白土化粧・刷毛目			兜巾		201805000182	
図版9	125	SK13	陶器	皿	12.8	4.8	4.6	灰		砂目痕			露胎		201805000188	
図版9	126	SK13	陶器	香炉	(12.8)	5.6	6.3	銅緑					兜巾		17世紀後半 ～18世紀前半	201805000208
図版9	127	SK13	陶器	香炉	12.8	—	6.1	藁灰 褐	流し掛け						201805000200	
図版9	128	SK13	陶器	蓋物	11.8	—	4.8	褐	白土化粧・刷毛目						201805000199	
図版9	129	SK13	陶器	灯明皿	10.5	4.8	4.4	褐						返しあり	201805000202	
図版9	130	SK13	陶器	灯明皿	9.0	4.8	2.1	褐							201805000201	
図版9	131	SK13	陶器	鉢	(25.6)	(9.6)	9.7	褐		打刷毛目			畳付・砂目 見込み蛇ノ目軸はぎ	現川系	201805000190	
図版9	132	SK13	陶器	鉢	22.4	8.9	9.0	藁灰					高台鉄漿残存		201805000191	
図版9	133	SK13	陶器	鉢	51.2	15.5	17.3	鉄 藁灰	白土化粧・刷毛目 波	刷毛目 砂目痕?カ所				古武雄	201805000193	
図版9	134	SK13	陶器	瓶	5.6	7.7	23.2	鉄 藁灰	白土化粧・刷毛目					胴部径13.0cm	17世紀後半 ～18世紀後半	201805000195
図版9	135	SK13	陶器	瓶	3.8	10.3	26.9	鉄						胴部径15.0cm	17世紀後半?	201805000194

第4表 遺物観察表4

図版	遺物No.	出土遺構	種別	器種	法量			染付軸楽	装飾・調整			底面・高台内印跡 <sup>○△◇</sup>	特徴	備考	登録番号
					口径(長)	底径(幅)	器高(厚)		外面	内面	見込み				
図版9	136	SK13	陶器	壺	8.1	7.4	13.5	緑・褐				削り底	胴部径12.6cm	17世紀後半	201805000196
図版9	137	SK13	陶器	壺	7.8	6.6	14.7	緑・褐				削り底	胴部径12.6cm	18世紀後半	201805000197
図版9	138	SK13	陶器	壺	10.0	7.7	14.4	鉄・褐				削り底	胴部径14.9cm	19世紀後半	201805000198
図版9	139	SK13	陶器	播鉢	38.0	13.0	13.4	鉄	ナデ	ナデ・ハケ目		糸切り	口縁部のみ施釉	17世紀後半	201805000204
図版10	140	SK13	陶器	急須	7.0	8.0	10.8	褐							201805000206
図版10	141	SK13	陶器	急須蓋	8.0	—	4.3	褐							201805000205
図版10	142	SK13	土製品	焼塩蓋	6.5	—	1.8	橙	ナデ	ナデ			赤色粒子・砂粒含む		201805000216
図版10	143	SK13	土製品	焼塩壺	(6.0)	5.0	7.4	橙	ナデ・ユビオサエ	ナデ			赤色粒子・砂粒含む		201805000214
図版10	144	SK13	土師器	焙烙	31.0	24.5	5.7	褐灰	ナデ・オサエ	ナデ			スス付着		201805000219
図版10	145	SK14	磁器	碗	10.3	3.9	5.4	染付	葦・雁・圏線	圏線・二重圏線	火炎宝珠			18世紀後半	201805000231
図版10	146	SK14	磁器	碗	8.6	3.1	5.3	染付	圏線・牡丹唐草 蕨樹・二重	四方禰・二重圏線 圏線	十字花				201805000230
図版10	147	SK14	磁器	碗	7.6	(2.8)	4.8	染付	草・圏線	二重圏線			小丸碗	18世紀後半	201805000232
図版10	148	SK14	磁器	碗	(9.4)	(3.4)	4.8	染付	草花	二重圏線・圏線	記号あり	記号あり	広東碗	19世紀初頭	201805000234
図版10	149	SK14	磁器	蕎麦猪口	7.0	4.9	5.4	染付	渦・宝・二重圏線					18世紀?	201805000237
図版10	150	SK14	磁器	蓋	10.1	3.9	2.9	染付	二重圏線・蓮弁 竹林人物	四方禰・二重圏線 松竹梅		「富貴長春」		19世紀～?	201805000243
図版10	151	SK14	磁器	蓋	10.0	6.0	2.5	染付	千鳥・松・網干		松		広東碗		201805000242
図版10	152	SK14	磁器	円筒碗	(7.8)	—	(5.2)	染付	斜め格子・菊花	二重圏線・圏線			くらわんか		201805000236
図版10	153	SK14	磁器	碗	(7.6)	—	(5.0)	白磁・鉄	鉄(帯)				口錆		201805000235
図版10	154	SK14	磁器	碗	(15.0)	—	(4.8)	青磁染付		四方禰・二重圏線				19世紀初頭	201805000244
図版10	155	SK14	磁器	瓶	—	2.9	(5.6)	染付	梅花・竹				最大径4.2cm	19世紀	201805000241
図版10	156	SK14	磁器	瓶	1.9	3.8	10.0	染付	草花・圏線				最大径5.8cm	19世紀	201805000240
図版10	157	SK14	磁器	碗	11.0	3.8	6.0	白磁						18世紀後半	201805000245
図版10	158	SK14	磁器	碗	8.8	3.6	5.6	色絵	牡丹・花唐草・蓮弁	四方禰・二重圏線	五弁花		下ふくれ 最大径9.2cm		201805000247
図版10	159	SK14	陶器	碗	8.8	3.3	5.2	灰	岩?			露胎	京焼風		201805000249
図版10	160	SK14	陶器	碗	(8.0)	4.6	6.9	褐	沈線						201805000252
図版10	161	SK24	土師器	灰器	(18.6)	(15.8)	8.1	黄橙 灰白	ナデ・陰刻	ナデ			坂東寺焼 最大径19.6cm		201805000343
図版10	162	SK32上層	磁器	碗	(10.4)	4.1	5.7	染付	草花・圏線 二重圏線		兜巾	丸碗			201805000363
図版10	163	SK32上層	磁器	碗	(10.0)	4.0	5.2	染付	雪輪・草花			「大明口」	コンニャク印版	18世紀前半	201805000365
図版10	164	SK32下層	磁器	碗	—	(4.2)	(3.4)	染付	二重圏線	二重圏線	菊	「口成口製」			201805000381
図版10	165	SK32下層	磁器	碗	—	—	(5.4)	染付	草花・二重圏線				初期伊万里	17世紀前半	201805000380
図版10	166	SK32下層	磁器	皿	(21.2)	8.4	5.5	青磁染付	花卉		染付部分軸はぎ	脚3か所・蛇ノ目軸はぎ 軸はぎ部分鉄錆		17世紀後半	201805000382
図版11	167	SK32下層	陶器	碗	(8.4)	3.6	5.1	褐	白土化粧・刷毛目	白土化粧・刷毛目		畳付軸はぎ			201805000383
図版11	168	SK32下層	陶器	皿	—	6.0	(6.8)	透明				兜巾・釘彫り	砂目痕5か所		201805000385
図版11	169	SK32下層	陶器	皿	—	5.9	(3.4)	灰釉							201805000386
図版11	170	SK32下層	陶器	火入れ	(12.6)	—	(12.0)	透明	雪・五弁花 圏線・波				三鳥手	17世紀～	201805000387
図版11	171	SK40	磁器	碗	(11.8)	(3.8)	6.0	染付	花						201805000432
図版11	172	SK40	磁器	碗	(9.0)	(4.0)	5.6	染付	瓢箪・草・花				コンニャク印版		201805000433
図版11	173	SK40	磁器	皿	(21.0)	(14.2)	3.3	染付	牡丹唐草	雁	圏線	畳付軸かき	口錆・輪花皿		201805000437
図版11	174	SK40	磁器	皿	(14.4)	9.9	2.6	染付	梅	龍・牡丹	圏線				201805000436
図版11	175	SK40	磁器	碗	(15.0)	6.0	7.8	白磁							201805000439
図版11	176	SK40	陶器	皿	—	4.5	(2.1)	藁灰					砂目痕・兜巾	17世紀	201805000441
図版11	177	SK40	土製品	火入れ	6.4	(4.0)	5.0	浅黄橙	ナデ	回転ナデ			胴部径(8.0)cm		201805000450
図版11	178	SK40	陶器	播鉢	33.0	11.5	11.7	褐釉	回転ナデ	回転ナデ・ハケ目		糸切り			201805000444
図版11	179	SK40	土師器	焙烙	30.6	21.5	6.8	橙	ハケ目・ナデ	ハケ目・ナデ			内外面スス付着 裏母含む		201805000448
図版11	180	SK44	磁器	小碗	7.0	2.7	3.3	染付	笹				二次焼成著しい		201805000483
図版11	181	SK44	陶器	碗	(11.2)	5.1	6.7	褐						17世紀後半	201805000485
図版11	182	SK48	磁器	碗	10.9	4.0	5.9	染付	氷裂・梅	氷裂	氷裂・草花	畳付無軸	端反碗		201805000525

第5表 遺物観察表5

図版	遺物No.	出土遺構	種別	器種	法量			染付軸染	装飾・調整			底面・高台内印跡 <sup>※2</sup>	特徴	備考	登録番号
					口径(長)	底径(幅)	器高(厚)		外面	内面	見込み				
図版11	183	SK48	磁器	碗	12.3	5.0	6.5	染付	瓜・二重圏線・圏線	二重圏線・圏線	岩波・三足ハマ痕	畳付無軸	端反碗		201805000500
図版11	184	SK48	磁器	湯呑	7.0	3.6	5.3	染付	若松				口縁部露胎		201805000529
図版11	185	SK48	磁器	碗	10.6	4.5	5.6	染付	山水・東屋		岩波	畳付無軸			201805000526
図版11	186	SK48	磁器	蓋物	12.4	6.1	6.4	染付	雪・瓜?		蛇ノ目軸はぎ		端反碗		201805000565
図版11	187	SK48	磁器	碗蓋	9.4	(3.8)	2.7	染付	宝珠・龍・波	波・圏線			三足ハマ痕 口緒・型打技法		201805000510
図版11	188	SK48	磁器	皿	13.3	8.2	4.1	染付		葉・格子		蛇ノ目凹型高台	三足ハマ痕 型打ち技法		201805000508
図版11	189	SK48	磁器	皿	13.8	8.5	4.0	染付		変形字・梅		蛇ノ目凹型高台	畳付無軸		201805000531
図版11	190	SK48	磁器	手塩皿	7.2	3.5	1.8	染付	よろけ斜格子				橋形つまみ		201805000535
図版11	191	SK48	磁器	蓋	9.3	—	2.1	染付	圏線・二重圏線 丸・草花丸				三足ハマ痕		201805000501
図版12	192	SK48	陶器	碗	10.8	3.8	5.8	鉄・藁灰					ハマ痕		201805000541
図版12	193	SK48	陶器	碗	11.4	3.9	5.6	灰・銅緑							201805000556
図版12	194	SK48	陶器	碗	9.2	3.4	5.1	藁灰					釘彫り		201805000519
図版12	195	SK48	陶器	碗	—	4.0	2.4	褐	蜚手	打刷毛目	蛇ノ目軸はぎ		現川系		201805000572
図版12	196	SK48	陶器	皿	—	5.4	2.2	銅							201805000518
図版12	197	SK48	陶器	皿	—	4.7	1.4	鉄			蛇ノ目軸はぎ	無軸			201805000573
図版12	198	SK48	陶器	蓋	(9.0)	—	1.1	透明		墨書「福」			碗に転用・墨痕あり		201805000576
図版12	199	SK48	陶器	蓋	9.0	—	1.2	透明					重ね焼き痕跡	200とセット	201805000558
図版12	200	SK48	陶器	蓋物	9.2	6.1	5.1	透明					露胎	199とセット	201805000557
図版12	201	SK48	陶器	貧乏徳利	4.2	9.5	25.2	鉄	「通六」「新」						201805000502
図版12	202	SK49	磁器	碗	10.8	4.4	6.2	染付	二重圏線 圏線・草花				丸碗	17世紀後半	201805000579
図版12	203	SK49	磁器	碗	9.2	3.2	4.6	白磁					口緒		201805000578
図版12	204	SK49	陶器	碗	12.1	4.7	6.0	白土化粧	刷毛目	刷毛目			兜巾	17世紀後半	201805000588
図版12	205	SK49	陶器	皿	7.0	4.6	3.5	銅緑			蛇ノ目軸はぎ	高台無軸		17世紀	201805000590
図版12	206	SK50・51	磁器	皿	(12.8)	(7.2)	(3.1)	染付		鶯・雄葉		畳付無軸	型押し・墨弾き 溝縁口縁	19世紀後半	201805000609
図版12	207	SK50・51	磁器	皿	—	(11.2)	(3.0)	染付	圏線・二重圏線 唐草	牡丹唐草・二重圏線	五弁花	畳付無軸	朝麦焼	18世紀前半 ～中頃	201805000599
図版12	208	SK50・51	磁器	皿	(14.2)	(8.4)	4.3	染付	唐草・圏線 二重圏線	花卉・蛸唐草 二重圏線			くらわんか	18世紀後半	201805000600
図版12	209	SK50	陶器	皿	(8.0)	(3.8)	5.0	褐	白土化粧・刷毛目	白土化粧・刷毛目		畳付無軸			201805000613
図版12	210	SK59下層	磁器	碗	10.1	4.3	6.3	白磁					口緒		201805000676
図版12	211	SK59西半下層	磁器	碗	(9.3)	4.1	5.5	染付	岩・草花・二重圏線		二重圏線	畳付無軸			201805000674
図版12	212	SK59上層	磁器	碗	9.7	4.2	5.2	染付	松				「大明年製」	18世紀	201805000699
図版12	213	SK59下層	磁器	碗	(8.0)	(3.0)	4.3	染付	圏線・二重圏線 山水楼閣?						201805000677
図版12	214	SK59下層	磁器	猪口	6.6	3.6	4.6	白磁	白絵・藤				畳付軸はぎ	17世紀後半 ～18世紀前半	201805000681
図版12	215	SK59下層	磁器	猪口	6.0	2.9	4.4	白磁					高台あり・口緒		201805000680
図版12	216	SK59下層	磁器	皿	20.4	(12.4)	3.1	染付	圏線	葉・窓絵に草花	圏線				201805000667
図版12	217	SK59下層	磁器	皿	10.5	6.5	2.0	染付	圏線・二重圏線	圏線	松				201805000678
図版12	218	SK59下層	陶胎染付	鉢	—	—	(3.8)	染付	丸					18世紀前半	201805000679
図版12	219	SK59上層	磁器	瓶	—	—	(5.7)	染付	草花・印花			高台無軸	型押し		201805000657
図版12	220	SK59検出	磁器	盃	(5.4)	2.0	2.8	色絵	草花		「招魂口」「久晋」				201805000647
図版12	221	SK59下層	陶器	碗	10.3	4.0	5.8	透明	若松				京焼風		201805000683
図版12	222	SK59下層	陶器	碗	9.3	4.8	5.0	灰	草				京焼風		201805000682
図版12	223	SK59下層	陶器	碗	12.0	4.2	5.2	褐	白土化粧・刷毛目	唐草・刷毛目					201805000685
図版12	224	SK59下層	陶器	碗	10.8	4.4	6.4	銅緑・鉛							201805000684
図版12	225	SK59下層	陶器	小碗	6.4	2.6	2.7	鉛						18世紀	201805000688
図版12	226	SK59下層	陶器	小碗	6.6	2.6	3.4	藁灰							201805000687
図版12	227	SK59下層	陶器	皿	13.4	5.1	3.7	灰・銅緑			蛇ノ目軸はぎ			17世紀	201805000689
図版13	228	SK59下層	陶器	鉢	29.0	11.8	9.5	灰釉	刷毛目				古武雄 砂目痕5分所	17世紀	201805000712
図版13	229	SK67	磁器	碗	—	5.2	(5.6)	染付	草花・圏線		二重・五弁花	記号あり	くらわんか コンニャク印板		201805000735

第6表 遺物観察表6

図版	遺物No.	出土遺構	種別	器種	法量			染付軸塗	装飾・調整			底面・高台内印跡 <sup>○△</sup>	特徴	備考	登録番号	
					口径(長)	底径(幅)	器高(厚)		外面	内面	見込み					
図版13	230	SK67	磁器	碗	(10.0)	5.8	5.0	染付	二重圏線 圏線・唐草			兜巾・蛇ノ目高台	砂目痕	17世紀初頭	201805000737	
図版13	231	SK67	陶器	蓋物蓋	(14.6)	—	5.4	褐	刷毛目						201805000752	
図版13	232	SK75	磁器	碗	11.7	4.5	6.4	染付	梅・圏線			畳付無軸	丸碗	17世紀後半	201805000774	
図版13	233	SK75	磁器	碗	11.0	4.5	6.3	染付	草花			畳付無軸	丸碗	17世紀後半	201805000773	
図版13	234	SK75	磁器	碗	10.2	4.3	5.8	染付	圏線・二重圏線 太湖石・松竹・草花			畳付無軸	墨弾き	18世紀～	201805000772	
図版13	235	SK75	磁器	碗	(14.0)	(5.2)	6.3	染付	網目・圏線 二重圏線	網目・二重圏線		高台軸はぎどり 「宣明年製」		17世紀後半	201805000776	
図版13	236	SK75	磁器	小碗	(7.2)	(3.3)	4.6	染付	山水・圏線 二重圏線				砂目痕	17世紀後半	201805000778	
図版13	237	SK75	磁器	皿	(13.4)	(5.0)	3.7	染付	雁	雁					201805000779	
図版13	238	SK75	磁器	皿	(20.6)	—	(3.8)	染付	草?	波?					201805000783	
図版13	239	SK75	磁器	皿	13.8	8.2	2.5	染付		二重圏線・帯・草				18世紀中頃	201805000810	
図版13	240	SK75	磁器	花生	—	6.4	(12.3)	染付	花卉	露胎		高台内無軸	型押し成型		201805000781	
図版13	241	SK75	磁器	花生	(10.0)	—	(12.8)	染付	草花	露胎			竹形・掛け花生 穿孔		201805000811	
図版13	242	SK75	磁器	碗	14.8	5.0	5.2	色絵		菊	蛇ノ目軸はぎ				201805000789	
図版13	243	SK75	磁器	碗	(10.0)	4.2	5.6	色絵	巴	巴		畳付無軸		18世紀～	201805000788	
図版13	244	SK75	磁器	碗	10.4	4.0	6.6	白磁				畳付無軸			201805000812	
図版13	245	SK75	磁器	猪口	(6.4)	3.6	4.6	白磁	白絵・藤			畳付無軸		17世紀～ 18世紀前半	201805000786	
図版13	246	SK75	陶器	碗	9.6	4.9	6.3	灰				畳付無軸			201805000790	
図版13	247	SK75	陶器	碗	(11.0)	4.5	6.8	透明				兜巾	練り上げ・関西系	17世紀末	201805000813	
図版13	248	SK75	陶器	鉢	(26.6)	(10.4)	10.9	鉄・褐 薬灰	刷毛目	刷毛目		露胎 ダンゴ2箇所残存			201805000800	
図版13	249	SK75	陶器	播鉢	—	—	(8.2)	褐		ハケ目					201805000799	
図版13	250	SK75	土師器	灯明皿	8.9	4.2	1.9	浅黄橙	ナデ	ナデ		糸切り	油煙付着		201805000801	
図版13	251	SK82	磁器	碗	10.2	4.2	7.9	染付	圏線・笹・波			兜巾・高台無軸 砂目痕		17世紀前半	201805000867	
図版13	252	SK82	磁器	碗	10.4	4.2	6.2	白磁				畳付無軸	口錯	17世紀後半	201805000875	
図版13	253	SK82	磁器	皿	20.6	(11.4)	4.2	色絵		牡丹唐草	色絵	高台無軸	型打成型 口錯・輪花皿		201805000877	
図版13	254	SK82	磁器	皿	13.1	4.8	3.0	染付		扇・流水・水生植物		兜巾・砂目痕		17世紀	201805000873	
図版13	255	SK82	磁器	皿	(13.4)	4.7	3.0	青磁				砂目痕・兜巾 高台無軸		17世紀	201805000879	
図版14	256	SK82	陶器	碗	11.2	4.5	7.0	薬灰				兜巾・砂目痕		17世紀	201805000880	
図版14	257	SK82	陶器	皿	14.0	4.7	3.0	薬灰		砂目痕3か所		砂目痕3か所・兜巾		17世紀後半	201805000883	
図版14	258	SK82	陶器	大鉢	(54.0)	—	(4.9)	灰軸	丸貼り付け	刷毛目				18世紀?	201805000885	
図版14	259	SK82	陶器	蓋	5.8	3.4	2.7	褐		無軸		糸切り			201805000889	
図版14	260	SK82	陶器	鉢	(15.0)	(12.0)	(5.3)	長石		鉄絵		脚2箇所 胎土目1か所	志野焼	16世紀後半 ～17世紀初頭	201805000888	
図版14	261	SK82	陶器	播鉢	33.3	10.0	14.1	褐・鉄		ハケ目		糸切・高台無軸	口縁部のみ施軸		201805000887	
図版14	262	SK111	磁器	碗蓋	(9.6)	(4.0)	2.9	染付	帯・格子・二重圏線	格子	格子	畳付無軸	端反碗	19世紀後半	201805001046	
図版14	263	SK111	磁器	碗	(9.2)	4.1	4.7	染付	二重圏線・圏線			圏線・草花	畳付無軸	端反碗	201805001040	
図版14	264	SK111	磁器	湯呑	(6.0)	3.1	5.2	染付	菊			畳付無軸		19世紀	201805001047	
図版14	265	SK111	磁器	小碗	(6.8)	(2.8)	3.3	染付	圏線	二重圏線	山水楼閣? 二重圏線		砂目痕		201805001044	
図版14	266	SK111	磁器	瓶	1.6	3.4	10.7	染付	草花・圏線				砂目痕	最大径5.8cm	19世紀	201805001050
図版14	267	SK111	磁器	段重	15.4	(10.4)	5.8	染付	牡丹唐草・竹				口縁部露胎	19世紀	201805001051	
図版14	268	SK111	陶器	皿	—	—	(3.1)	褐		白土化粧・刷毛目			なぶり口?		201805001058	
図版14	269	SK113	磁器	碗	14.0	4.3	5.1	染付	山水・東屋・霞		岩波	高台無軸	三足ハマ痕 端反碗		201805001069	
図版14	270	SK113	磁器	湯呑	7.2	3.6	5.4	染付	松・寿			畳付無軸			201805001075	
図版14	271	SK113	磁器	湯呑	7.1	3.2	5.4	染付	薄丸・圏線						201805001076	
図版14	272	SK113	磁器	盃	6.0	3.2	4.5	染付	扇・葉						201805001083	
図版14	273	SK113	磁器	皿	8.6	5.5	2.0	褐				畳付無軸	型打		201805001113	
図版14	274	SK113	磁器	紅皿	(6.0)	3.1	5.2	白磁				無軸	菊形・型打		201805001052	
図版14	275	SK113	磁器	蓋物蓋	10.0	—	2.8	染付	二重圏線・圏線 蝶・草花	圏線・軸カイヤギ化			橋形つまみ 口縁無軸		201805001094	
図版14	276	SK113	磁器	蓋物蓋	9.8	—	2.4	染付	二重圏線・桜 圏線・家屋				口縁無軸		201805001093	

第7表 遺物観察表7

図版	遺物 No.	出土遺構	種別	器種	法量			染付 軸葉	装飾・調整			底面・高台内印跡 <sup>○</sup>	特徴	備考	登録 番号	
					口径(長)	底径(幅)	器高(厚)		外面	内面	見込み					
図版14	277	SK113	磁器	蓋物	9.7	5.2	6.0	染付	團線・窓絵に菊荷牡丹唐草・蓮弁・蓮葉・二重團線			畳付無軸			201805001092	
図版14	278	SK113	磁器	蓋物	9.8	4.8	5.3	染付	葉・蓮子・二重團線				畳付無軸・口縁無軸		201805001091	
図版14	279	SK113	陶器	碗	(8.8)	—	5.8	透明	ヘラ切り			畳付無軸			201805001102	
図版14	280	SK113	陶器	碗	6.7	2.9	4.3	銅緑	飛龍						201805001101	
図版14	281	SK113	陶器	碗	7.2	3.3	5.6	黄灰				兜巾・畳付無軸	貫入		201805001100	
図版14	282	SK113	陶器	皿	(19.0)	(9.8)	3.7	褐				陰刻「J」・墨書	高台内無軸		201805001103	
図版15	283	SK113	陶器	瓶	3.2	6.8	19.0	褐					最大径12.6cm	19世紀	201805001105	
図版15	284	SK113	陶器	德利	—	5.9	(9.2)	灰・透明							201805001110	
図版15	285	SK113	陶器	貧乏德利	最大径14.0	9.4	(18.6)	灰	「通六」「新屋」						201805001112	
図版15	286	SK119	磁器	碗蓋	(9.2)	(3.4)	2.9	染付	花卉	二重團線	團線		端反碗		201805001167	
図版15	287	SK119	磁器	碗	10.4	4.4	5.5	染付	花卉・太湖石・蝶・團線	二重團線	團線・岩波	畳付無軸	端反碗		201805001161	
図版15	288	SK119	磁器	碗	10.8	4.4	5.9	染付	格子・二重團線	格子	格子	畳付無軸	端反碗		201805001162	
図版15	289	SK119	磁器	湯呑	7.0	3.6	5.4	染付	格子・二重團線			畳付無軸			201805001172	
図版15	290	SK119	磁器	皿	13.2	8.8	3.6	染付		帯	二重團線・山水	蛇ノ目凹型高台	三足ハマ痕		201805001176	
図版15	291	SK119	陶器	土瓶	8.6	7.3	11.5	透明	草花				スス付着		201805001194	
図版15	292	SK119	陶器	貧乏德利	—	8.1	(17.5)	褐	「通老」「口佐屋」			糸切			201805001202	
図版15	293	SK119	陶器	窯道具	3.8	5.4	3.7	褐	ナデ			工具切断			201805001201	
図版15	294	SK119	土師器	壺	(5.4)	(5.0)	6.3	浅黄橙	回転ナデ・ナデ	回転ナデ		糸切	最大径(8.0)cm		201805001199	
図版15	295	SK121	磁器	碗蓋	8.4	3.4	2.8	染付	松・鶴	岩波		松			201805001217	
図版15	296	SK121	磁器	小碗	7.4	3.1	3.5	染付	渦・二重團線	帯	草花・團線				201805001215	
図版15	297	SK121	磁器	手塩皿	8.5	4.4	2.3	染付			竹垣・瓜		三足ハマ痕		201805001223	
図版15	298	SK121	磁器	段重	(5.6)	(5.0)	2.2	色絵	團線・花卉・鋸歯						201805001230	
図版15	299	SK121	磁器	蓋物	9.3	4.5	4.9	染付		桜・家屋・團線 二重團線			口縁無軸		201805001226	
図版15	300	SK121	磁器	鉢	(3.0)	5.8	6.5	染付	文字		團線	畳付無軸	三足ハマ痕		201805001225	
図版15	301	SK121	磁器	德利	4.1	—	(23.8)	透明	菊						201805001235	
図版15	302	SK121	磁器	土瓶	9.3	7.9	9.8	褐	竹			露胎	最大径16.0cm スス付着		201805001232	
図版15	303	SK121	瓦質土器	炬燵	24.1	18.7	16.1	黄灰 にぶい黄橙	ヘラケズリ・ナデ	ナデ			接合部の切込み痕		201805001203	
図版15	304	SK121	陶器	行平鍋蓋	4.5	17.4	3.8	褐・灰	飛龍・白土化粧	宝・梅					201805001234	
図版15	305	SK121	陶器	行平鍋蓋	18.0	7.5	11.1	褐・灰	飛龍			スス付着			201805001233	
図版15	306	SK121	瓦質土器	炬燵	23.8	23.2	19.7	赤褐	梅(陰刻)・ナデ	ナデ・ハケ目 ヘラ切り			スス付着・脚3か所		201805001301	
図版16	307	SK124	磁器	碗	10.1	4.4	5.6	染付	松・渦・鳥 團線・二重團線			畳付無軸 「大明年製」	丸碗	18世紀	201805001262	
図版16	308	SK124	磁器	碗	11.2	4.6	6.5	染付	花卉・蝶			砂目痕・畳付無軸	瀬戸・美濃系		201805001260	
図版16	309	SK124	磁器	碗	8.7	3.8	5.2	染付	牡丹・撫子 二重團線・團線			畳付無軸		18世紀前半	201805001264	
図版16	310	SK124	磁器	碗	9.9	4.3	5.4	染付	柳・紅葉 二重團線・宝?			團線・畳付無軸			201805001261	
図版16	311	SK124	磁器	盃	6.5	2.9	3.1	染付	草・二重團線・團線			畳付無軸			201805001266	
図版16	312	SK124	磁器	盃	6.6	3.1	2.8	染付	山水樓閣			畳付無軸			201805001267	
図版16	313	SK124	磁器	鉢	(23.0)	—	(6.6)	染付	帯・花唐草 二重團線	花唐草					18世紀	201805001271
図版16	314	SK124	陶器	碗	(9.4)	4.2	6.5	透明				砂目痕・兜巾	京焼風		201805001278	
図版16	315	SK124	陶器	碗	(9.6)	3.7	5.3	褐	白土化粧・刷毛目	白土化粧・刷毛目		砂目痕・畳付無軸			17世紀後半	201805001279
図版16	316	SK124	陶器	小碗	6.7	3.4	4.4	胎				高台無軸			201805001280	
図版16	317	SK124	陶器	皿	12.7	4.8	3.5	灰・銅緑			蛇ノ目軸はぎ	兜巾・高台無軸 砂目痕			17世紀後半	201805001281
図版16	318	SK124	陶器	灯明皿	11.4	3.6	2.5	鉄				糸切後・ヘラケズリ	油煙付着		201805001284	
図版16	319	SK124	陶器	灯明皿	—	10.5	2.1	褐				重ね焼き痕跡	受け部分3か所穿孔		201805001283	
図版16	320	SK124	土師器	灯明皿	(13.2)	6.2	2.8	黄灰	回転ナデ	ナデ		糸切	口縁に油煙付着		201805001288	
図版16	321	SK124	土師器	灯明皿	9.0	4.4	2.0	黄橙	回転ナデ	ナデ		糸切	口縁に油煙付着		201805001287	
図版16	322	SK124	土師器	焼塩蓋	(8.2)	—	2.1	橙	回転ナデ	布目・ナデ			胎土：1mm大の 砂粒含む。良好。		201805001291	
図版16	323	SK124	土師器	焼塩壺	5.4	3.5	8.1	橙	回転ナデ	布目・ナデ・オサエ		ナデ	胎土：2mm大の 砂粒含む。良好。		201805001289	



第8表 遺物観察表8

図版	遺物No.	出土遺構	種別	器種	法量			染付 釉薬	装飾・調整			底面・高台内印跡 <sup>○△</sup>	特徴	備考	登録 番号	
					口径(長)	底径(幅)	器高(厚)		外面	内面	見込み					
図版16	324	SK124	土師器	坏	(14.2)	8.0	2.4	黄橙・黒	回転ナデ	ナデ		ミガキ	内曇り・胎土良好		201805 001293	
図版16	325	SK124	陶器	瓶	最大径 17.6	9.3	(23.6)	鉄・褐	刷毛目			畳付無釉		17世紀後半 ~18世紀	201805 001335	
図版16	326	SK124	瓦質土器	火鉢	32.6	23.3	11.4	黄灰	ナデ・ハケ目	ハケ目・ナデ		ハケ目・ナデ 脚3か所			201805 001296	
図版16	327	SK126	磁器	碗	11.6	4.6	6.0	染付	扇・梅・二重圏線 圏線・葉			「太口化製」		17世紀後半	201805 001303	
図版16	328	SK126	磁器	碗	(8.2)	4.2	6.3	染付	寿・丸・圏線 二重圏線			畳付無釉 「大明成化年製」		17世紀?	201805 001304	
図版16	329	SK126	磁器	皿	6.4	3.3	1.1	染付			草花・圏線	砂目痕	輪花皿	17世紀中頃?	201805 001306	
図版16	330	SK127	磁器	碗蓋	8.6	3.3	2.7	染付	花卉・鶴		岩波	畳付無釉	端反碗		201805 001312	
図版16	331	SK127	磁器	碗	7.8	5.2	6.6	染付	みじん唐草・蓮弁 欄干・圏線	四方襷		圏線・「成化年製」		19世紀後半	201805 001311	
図版16	332	SK127	磁器	盃	7.4	3.2	2.5	染付	竹垣・草・菊・蝶			畳付無釉			201805 001315	
図版16	333	SK127	磁器	段重	7.8	6.9	3.2	染付	鶴丸・丸・竹				口縁無釉		201805 001318	
図版16	334	SK127	磁器	小皿	(7.7)	4.0	1.8	青磁				畳付無釉			201805 001319	
図版16	335	SK127	陶器	小壺	—	4.0	5.6	灰・褐				糸切り・砂目痕			201805 001324	
図版16	336	SK127	陶器	ハマ	6.6	—	1.3	露胎	ナデ			三足	色調：橙		201805 001331	
図版16	337	SK127	陶器	ハマ	6.0	—	1.4	露胎	ナデ・陰刻「全」			三足	色調：赤褐		201805 001332	
図版16	338	SK127	陶器	ハマ	6.2	—	2.0	露胎	ナデ・陰刻「一」			三足	色調：浅黄橙		201805 001333	
図版17	339	SK130	磁器	碗蓋	9.7	4.0	2.9	染付	圏線・欄干	太湖石・二重圏線	麒麟・圏線	二重方形に変形字	端反碗		201805 001350	
図版17	340	SK130	磁器	碗	10.8	4.3	6.0	染付	麒麟・雷・牡丹唐草 渦・蓮弁・圏線	雷	麒麟	麒麟・欄干			201805 001342	
図版17	341	SK130	磁器	碗蓋	9.0	3.8	3.0	染付	牡丹唐草・竹	雷	変形字・松竹梅	畳付無釉	素描き	1820~	201805 001351	
図版17	342	SK130	磁器	碗	10.2	4.1	5.8	染付	牡丹唐草・竹 二重圏線・蓮弁	雷	松竹梅	畳付無釉	素描き	1820~	201805 001343	
図版17	343	SK130	磁器	碗	10.9	4.7	5.8	染付	花卉		岩波	畳付無釉	端反碗 三足ハマ痕		201805 001336	
図版17	344	SK130	磁器	碗	10.5	4.3	5.6	染付	圏線・薄丸	二重圏線	圏線	圏線・畳付無釉	端反碗		201805 001338	
図版17	345	SK130	磁器	碗	8.2	4.7	7.1	染付	雷・山水・家屋 蓮弁・二重	雷	変形字	二重圏線			201805 001349	
図版17	346	SK130	磁器	湯呑	6.8	3.5	5.7	染付	山水・家屋						201805 001357	
図版17	347	SK130	磁器	湯呑	8.9	3.9	4.5	染付	菊・岩・二重圏線	二重圏線	葉	畳付無釉			201805 001358	
図版17	348	SK130	磁器	小碗	6.9	2.9	3.9	染付	竹・草・丸			畳付無釉			201805 001362	
図版17	349	SK130	磁器	小碗	6.2	2.6	2.9	染付	竹			畳付無釉			201805 001376	
図版17	350	SK130	磁器	皿	10.2	4.8	2.8	染付		山水・雁 家屋・網干・霞		畳付無釉 三足ハマ痕			201805 001367	
図版17	351	SK130	磁器	盃	6.4	3.0	2.9	色絵		雷・山水		畳付無釉			201805 001363	
図版17	352	SK130	磁器	手塩皿	8.2	3.9	2.4	染付		薄丸		畳付無釉 三足ハマ痕			201805 001368	
図版17	353	SK130	磁器	手塩皿	7.7	4.0	1.7	染付	葉・蓮子・二重圏線	不明		畳付無釉・ハリ痕			201805 001364	
図版17	354	SK130	磁器	瓶	—	—	(3.0)	染付	蛸唐草・圏線	露胎				19世紀	201805 001373	
図版17	355	SK130	磁器	蓋	7.9	9.0	3.0	染付	二重圏線・梅						201805 001375	
図版17	356	SK130	磁器	段重	(13.0)	—	2.2	染付	市松		高台あり		口縁無釉		201805 001374	
図版17	357	SK130	磁器	皿	(9.8)	(5.4)	3.4	色絵		桜・山形					201805 001382	
図版17	358	SK130	磁器	皿	(34.0)	(18.2)	4.7	染付	唐草	獅子・牡丹	畳付無釉	墨弾き ハリ6か所残存		19世紀末	201805 001365	
図版17	359	SK130	磁器	皿	23.5	13.4	3.8	染付		圏線・流水	亀	畳付無釉	墨弾き ハリ痕4か所		19世紀末	201805 001366
図版17	360	SK130	陶器	碗	11.3	4.7	5.4	飴			蛇ノ目軸はぎ	高台無釉			201805 001383	
図版17	361	SK130	陶器	碗	9.4	3.5	5.0	灰		銅緑軸3か所	三足ハマ痕	畳付無釉			201805 001388	
図版17	362	SK130	陶器	碗	8.8	3.8	5.2	褐		白土化粧・刷毛目		畳付無釉			201805 001386	
図版17	363	SK130	陶器	碗	—	3.7	(4.6)	灰	カイヤギ	カイヤギ		高台無釉・釘彫り			201805 001387	
図版17	364	SK130	陶器	碗	6.0	3.3	5.6	灰	不明・源氏香			畳付無釉		19世紀	201805 001391	
図版17	365	SK130	陶器	皿	12.8	4.5	3.6	透明		銅緑軸	蛇ノ目軸はぎ	高台無釉・兜巾			18世紀	201805 001393
図版17	366	SK130	陶器	花生	6.8	5.5	11.4	褐				畳付無釉・砂目痕			201805 001415	
図版17	367	SK130	陶器	徳利	—	5.1	(13.6)	灰	足軽・短歌			高台無釉			201805 001417	
図版17	368	SK130	陶器	瓶	5.2	7.6	21.9	鉄・褐・灰	刷毛目・「通六新」			畳付無釉	最大径16.0cm		201805 001394	
図版17	369	SK130	陶器	灯明皿	10.8	3.9	1.9	灰	回転ヘラケズリ	ハケ目		露胎	ハマ痕・油煙付着		201805 001414	
図版17	370	SK130	陶器	カンテラ	4.0	2.8	3.8	褐				糸切・露胎	最大径7.2cm		201805 001418	

第9表 遺物観察表9

図版	遺物No.	出土遺構	種別	器種	法量			染付軸楽	装飾・調整			底面・高台内印跡 <sup>ホド</sup>	特徴	備考	登録番号
					口径(長)	底径(幅)	器高(厚)		外面	内面	見込み				
図版17	371	SK130	陶器	タンコロ	5.0	4.3	6.0	褐				糸切・露胎	口縁無軸	19世紀	201805001395
図版17	372	SK130	陶器	火入	5.2	5.3	6.5	灰軸				切り高台・露胎			201805001408
図版17	373	SK130	陶器	蓋	7.4	3.1	2.1	褐	刷毛目			糸切	亀つまみ・東野字焼		201805001401
図版17	374	SK130	陶器	蓋	9.5	4.7	2.1	褐							201805001420
図版17	375	SK130	陶器	窯道具	—	9.0	1.6	無軸	ナデ				脚6箇所		201805001432
図版18	376	SK130	陶器	土瓶	9.9	8.8	13.8	褐	沈線・草				スス付着 上半部のみ施軸 最大径19.4cm	19世紀	201805001399
図版18	377	SK130	陶器	鍋	20.3	7.5	9.1	鉄		ハマ痕4箇所		露胎 円錐状脚3箇所	取手2箇所 スス付着		201805001416
図版18	378	SK130	陶器	行平鍋	(19.6)	—	(10.1)	褐・透明	刷毛目・飛び鉋				胎土：非常に精良		201805001405
図版18	379	SK130	陶器	行平鍋	14.6	6.4	8.8	褐・鉄	飛び鉋				スス付着 取手隅刻「霞膳山」		201805001404
図版18	380	SK130	瓦質土器	灰入カ	(16.6)	10.0	13.8	灰	渦・圏線 草花・菱・亀甲	ナデ 回転ナデ・ハケ目	ナデ・脚接合		坂東寺焼(黒焼) 型押し・胎土：雲母含む		201805001425
図版18	381	SK130	瓦質土器	灰入カ	(17.0)	—	(8.6)	灰	沈線・点・ナデ	ナデ・ユビオサエ			坂東寺焼(黒焼) 胎土：雲母含む 継ぎ目痕残存・壁成やき跡		201805001426
図版18	382	SK130	土師器	焙烙	50.5	40.2	7.7	橙にふい、橙	ナデ・ハケ目	ナデ	ハケ目・ナデ		スス付着		201805001424
図版18	383	SK131	陶器	皿	—	5.9	(1.7)	灰			兜巾 高台内畳付無軸		胎土目3箇所	17世紀初頭	201805001435
図版18	384	SK131	陶器	皿	—	4.7	2.5	灰	軸垂れ	鉄絵(草)	高台内畳付無軸		砂目4箇所		201805001436
図版18	385	SK135	磁器	蓋物カ	(8.0)	(3.4)	2.0	白磁				高台無軸	口縁無軸		201805001447
図版18	386	SK135	陶器	皿	(7.6)	—	(1.7)	黄					源内焼	18世紀中頃	201805001448
図版18	387	SK139	磁器	碗	(9.8)	4.0	6.1	染付	太湖石・梅・圏線		圏線	「大明年製」		17世紀後半	201805001451
図版18	388	SK139	磁器	碗	(10.0)	(4.0)	5.3	染付	丸に紅葉・松・圏線		圏線・文字	二重圏線・畳付無軸			201805001453
図版18	389	SK139	磁器	蓋物	6.5	3.6	4.6	染付	鶴・若葉・山水			畳付無軸	口縁無軸		201805001455
図版18	390	SK139	陶器	碗	(10.0)	5.0	6.0	透明	山水楼閣			高台無軸 陰刻「小松吉」		17世紀後半	201805001457
図版18	391	SK139	陶器	碗	—	5.1	4.4	灰	刷毛目	刷毛目		畳付無軸		17世紀後半～	201805001459
図版18	392	SK139	陶器	皿	14.1	7.1	3.4	灰				畳付無軸			201805001460
図版18	393	SK139	陶器	鉢	24.8	—	9.9	褐・鉄						17世紀後半	201805001464
図版18	394	SK139	陶器	鉢	3.3	2.4	1.5	緑軸透明		鉄絵			織部焼・脚貼り付け		201805001463
図版19	395	SK141	磁器	碗	(8.4)	4.0	(4.9)	染付	網・圏線・二重圏線	網	二重圏線・菊	記号あり・畳付無軸		18世紀	201805001470
図版19	396	SK141	磁器	猪口	(7.4)	—	(5.0)	染付	草					18世紀後半	201805001473
図版19	397	SK144	磁器	碗	(13.2)	—	(4.5)	染付	花卉				丸碗	17世紀末～18世紀前半	201805001486
図版19	398	SK145	磁器	碗	11.6	—	4.3	染付	二重圏線・山水楼閣						201805001504
図版19	399	SK145	磁器	碗	—	(4.6)	(3.2)	染付	竹・梅 二重圏線・圏線			寿	朝妻焼?		201805001485
図版19	400	SK145	磁器	猪口	(5.6)	(2.6)	3.8	染付	雨降・圏線 二重圏線			畳付無軸		18世紀前半	201805001489
図版19	401	SK145	磁器	水滴	(5.1)	(4.5)	1.6	色絵	葉				継ぎ目痕残存		201805001496
図版19	402	SK145	陶器	碗	(9.0)	—	(4.4)	透明銅緑							201805001498
図版19	403	SK145	陶器	瓶	—	4.2	(8.1)	褐				糸切・陰刻「与し」			201805001501
図版19	404	SX81	磁器	皿	—	9.0	(1.9)	染付	花唐草・圏線 二重圏線・扇窓絵	蛸唐草	二重圏線 蛸唐草・網干	圏線・「大明成化年製」 ハリ痕1カ所		17世紀後半～18世紀中頃	201805000860
図版19	405	SX81	陶器	碗	(14.5)	(14.2)		灰	白土化粧 刷毛目・銅緑軸					17世紀後半～18世紀後半	201805000862
図版19	406	SK91	磁器	盃	6.5	2.4	2.8	染付		旗に「砂糖所」 「朱呂」	記号あり	櫛歯・畳付無軸	口鋳		201805000984
図版19	407	SK91	磁器	皿	(7.0)	(5.0)	(0.8)	白磁				雪結晶に「カヤマ」 「岐143」		1913～	201805000985
図版19	408	SK91	ガラス製品	瓶	1.2	3.1	6.9	透明	陽刻「滄海堂」						201805000986
図版19	409	SK52	ガラス製品	瓶	8.2	2.5	1.1	透明	陽刻「EYE LOTION ROHTO」 「A13」						201805000627
図版19	410	SK92	ガラス製品	瓶	1.9	3.8	8.8	コバルト	陽刻「本舗 山田安民」 「ロート目薬」			「T」			201805000989
図版19	411	SK92	ガラス製品	瓶	1.5	3.2	7.9	コバルト	陽刻「志らが赤毛染ナイス」			「: T. M.」	白髪染め瓶		201805000994
図版19	412	SK92	ガラス製品	瓶	2.4	6.0	22.6	透明	陽刻「大日本麦酒株式会社製造」 「DNB」			「☆4」		1906～1949	201805000988
図版19	413	SK13	磁器	ミニチュア土器	3.5	1.3	2.1	染付	竹			畳付無軸			201805000160
図版19	414	SK59	磁器	ミニチュア土器	3.4	1.6	1.9	緑軸				高台内無軸			201805000648
図版19	415	SD77	磁器	ミニチュア土器	2.1	1.1	1.1	白磁				高台内無軸・粘土皺			201805000847
図版19	416	SK13	磁器	ミニチュア土器	(4.2)	1.8	1.9	白磁				高台無軸・粘土皺			201805000174
図版19	417	SK14	磁器	ミニチュア土器	2.2	0.8	1.3	白磁				高台・畳付無軸			201805000246



第10表 遺物観察表10

図版	遺物No.	出土遺構	種別	器種	法量			染付 釉薬	装飾・調整			底面・高台内印跡 <sup>など</sup>	特徴	備考	登録 番号
					口径(長)	底径(幅)	器高(厚)		外面	内面	見込み				
図版19	418	SK49	磁器	ミニチュア 土器	4.1	2.0	2.0	白磁							201805 000586
図版20	419	SK2	土製品	人形	—	2.3	3.3		ナデ				恵比寿 穿孔・継ぎ目痕		201805 000023
図版20	420	SK4	土製品	人形	(5.8)	(4.0)	1.7		ナデ・ユビオサエ ヘラケズリ				猿		201805 000108
図版20	421	SK48検出	土製品	人形	4.7	3.5	4.0		ケズリ・ナデ				猿		201805 000522
図版20	422	SK110	土製品	人形	5.3	2.8	—		ヘラ切り・ナデ ケズリ・オサエ				猿		201805 001038
図版20	423	SK50	土製品	人形	3.1	5.1	—		ナデ・オサエ ヘラ切り				馬・頭部のみ残存		201805 000617
図版20	424	SK75	土製品	人形	6.0	7.0	6.1		オサエ・ヘラ切り				人間と馬		201805 000808
図版20	425	SX81	土製品	人形	(6.5)	(3.9)	(1.7)		ナデ・ヘラ切り						201805 000864
図版20	426	SK59	土製品	土鈴	4.0	2.9	—		ナデ・ヘラ切り	ケズリ?			舌あり		201805 000697
図版20	427	SD39	土製品	土鈴	7.6	7.8	(2.2)		ナデ・ヘラ切り	横ナデ・オサエ			絞り痕・赤色粒子		201805 000431
図版20	428	SK113	石製品	碁石	直径2.1		0.4	黒					重さ4.0g		201805 001116
図版20	429	SK124	石製品	碁石	直径2.1		0.5	黒					重さ4.0g		201805 001298
図版20	430	SK111	土製品	円盤状製品	直径2.0		0.6	橙	ナデ・ユビオサエ				碁石 <sup>カ</sup> ・重さ2.0g		201805 001067
図版20	431	SK113	土製品	円盤状製品	直径2.1		0.5	橙	ナデ・ユビオサエ				碁石 <sup>カ</sup> ・重さ2.0g		201805 001114
図版20	432	SK121	土製品	円盤状製品	直径2.2		0.5	橙	ナデ・ユビオサエ				碁石 <sup>カ</sup> ・重さ2.0g		201805 001236
図版20	433	SK121	土製品	円盤状製品	直径2.0		0.6	橙	ナデ・ユビオサエ				碁石 <sup>カ</sup> ・重さ2.0g		201805 001237
図版20	434	SK121	土製品	円盤状製品	直径2.2		0.6	橙	ナデ・ユビオサエ				碁石 <sup>カ</sup> ・重さ2.0g		201805 001238
図版20	435	SK121	土製品	円盤状製品	直径2.1		0.5	橙	ナデ・ユビオサエ				碁石 <sup>カ</sup> ・重さ2.0g		201805 001239
図版20	436	SK121	土製品	円盤状製品	直径2.1		0.6	橙	ナデ・ユビオサエ				碁石 <sup>カ</sup> ・重さ2.0g		201805 001240
図版20	437	SK121	土製品	円盤状製品	直径2.0		0.6	橙	ナデ・ユビオサエ				碁石 <sup>カ</sup> ・重さ2.0g		201805 001241
図版20	438	SK121	土製品	円盤状製品	直径2.1		0.6	橙	ナデ・ユビオサエ				碁石 <sup>カ</sup> ・重さ2.0g		201805 001242
図版20	439	SK121	土製品	円盤状製品	直径2.1		0.6	橙	ナデ・ユビオサエ				碁石 <sup>カ</sup> ・重さ2.0g		201805 001243
図版20	440	SK121	土製品	円盤状製品	直径2.0		0.6	橙	ナデ・ユビオサエ				碁石 <sup>カ</sup> ・重さ2.0g		201805 001244
図版20	441	SK121	土製品	円盤状製品	直径2.1		0.6	橙	ナデ・ユビオサエ				碁石 <sup>カ</sup> ・重さ2.0g		201805 001245
図版20	442	SK121	土製品	円盤状製品	直径2.1		0.6	橙	ナデ・ユビオサエ				碁石 <sup>カ</sup> ・重さ2.0g		201805 001246
図版20	443	SK121	土製品	円盤状製品	直径2.1		0.5	橙	ナデ・ユビオサエ				碁石 <sup>カ</sup> ・重さ2.0g		201805 001247
図版20	444	SK70	石製品	碇	(10.2)	8.4	1.5		ケズリ	ケズリ					201805 000767
図版20	445	SK124	石製品	碇石	14.1	3.7	1.4						重さ172.0g		201805 001297
図版20	446	SK2	銅製品	銭貨	直径2.3		0.1						寛永通宝 重さ2.0g		201805 001523
図版20	447	SK13	銅製品	銭貨	直径1.9		0.1						重さ1.0g		201805 001543
図版20	448	SK14	銅製品	銭貨	直径2.3		0.2						寛永通宝 重さ2.0g		201805 001551
図版20	449	SK59検出	アルミ製品	銭貨	直径2.2		1.5			「大日本」 「昭和十七年」			十銭・重さ1.0g		201805 001579
図版20	450	SK59検出	アルミ製品	銭貨	直径2.2		1.5			「昭和二十年」			十銭・一部欠損 重さ1.0g		201805 001580
図版20	451	SK4	銅製品	煙管 (雁首)	1.4	0.9	6.0						河骨型・重さ6.0g		201805 001537
図版20	452	SK119	銅製品	煙管 (雁首)	1.3	0.9	4.5		陰刻あり				重さ8.0g		201805 001615
図版20	453	SK113	銅製品	煙管 (雁首)	1.0	1.0	4.0						ラウ残存 重さ6.0g		201805 001642
図版20	454	SK14	銅製品	煙管 (吸口)	1.3	0.4	5.2						重さ8.0g		201805 001549
図版20	455	SK67	銅製品	煙管 (吸口)	0.9	0.4	5.7						ラウ残存 重さ4.0g		201805 001584
図版20	456	SK113	銅製品	煙管 (吸口)	1.0	0.7	4.0						重さ6.0g		201805 001643
図版20	457	SD87	銅製品	迷子札	(4.3)	(3.2)	0.1			「十間屋敷」「江尻邦太郎」・動物			重さ4.0g		201805 001587
図版20	458	SK2	銅製品	柄杓	(29.0)	—	(5.5)								201805 001526
図版20	459	SK93	鉄製品	太刀	(15.0)	2.0	4.2							1602と同一個体	201805 001601
図版20	460	SK93	鉄製品	太刀	(38.0)	2.2	4.7							1601と同一個体	201805 001602
図版20	461	SK93	鉄製品	太刀	(73.0)	1.0	2.8								201805 001603
図版20	462	SD20	鉛製品	玉	直径1.2								重さ12.0g		201805 001553
図版20	463	SK48	鉛製品	玉	直径1.2								重さ12.0g		201805 001572
図版20	464	SK48	鉛製品	玉	直径1.0								重さ8.0g		201805 001573
図版20	465	SK113	鉛製品	玉	直径1.4	1.0							穿孔あり 重さ14.0g		201805 001609

## IV. 総括

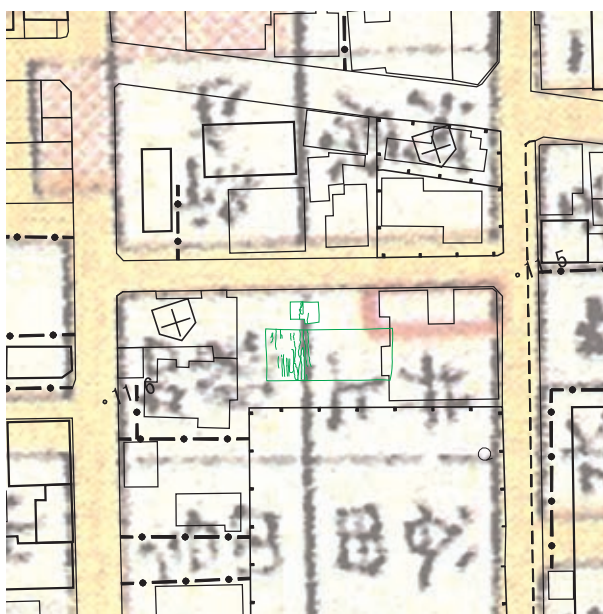
### 1. 遺構の変遷について

今回の発掘調査では、近世の溝 19 条・井戸 2 基・土坑 105 基・不明遺構 1 基・ピット多数を検出した。第 19 図は、今回の調査で検出した主要遺構を時期ごとに色分けしたものである。

本調査で最も古いのは S D 87 である。溝の床面からは初期伊万里碗や陶器の溝縁皿が出土しており、17 世紀前半から中頃と考えられる。その他に 17 世紀代のものとしては、S D 20・39・41、S E 118、S K 32・82・126 がある。18 世紀に入ると、遺構の数も増え、規模も大きくなる。S K 59 は 18 世紀前半の土坑であるが、長さ 3 m を超え、深さも 1.2 m を測る。今回の調査で最も多かったのが、19 世紀後半の遺構である。調査区全体に広がっており、出土遺物の量も他の時期と比較して多い。

### 2. 屋敷の土地利用について

今回の調査では、調査区が 2 軒の屋敷地をまたぐことから屋敷境に関する施設が検出されることが期待された。調査では、調査区の中央部西寄りに溝が集中して検出された。これらの溝は全て南北に走っており、古いものは 17 世紀前半から新しいものは 19 世紀後半まで及んでいる。これらの成果をもとに、久留米市都市計画図と『天保年間久留米城下図』における屋敷割りを重ね合わせた（第 19 図）。その結果、屋敷割りの屋敷境は S D 18・77・87 と合致し、北部の調査区でもその続きが確認されている。これらの西側でも同方向に走る溝が様々な時期に確認されていることから、踏襲されながら屋敷境を区画されいたことが窺える。



第 18 図 都市計画図・天保年間久留米城下図・溝状遺構の合成図（1/1,500）

### 3. 屋敷の居住者について

当該屋敷地の居住者は、『延寶八年久留米市街図』によると、四宮市右衛門と田尻次郎右衛門で、『天保年間久留米城下図』・『安政二年改旧廓図』・『明治二年旧郭図』によると、井上弥左衛門と加藤郷藏である。

四宮と田尻は、寛文分限帳にて名前を確認することができる。四宮市右衛門は御馬廻の「三番室田左京組」に属し、300 石を賜り、鉄砲 1 挺、長柄 1 本、指物 1 本を許されている。田尻次郎右衛門も、四宮と同じく御馬廻である。五番 渡瀬将監組に属し、耕作検見役に就いていた。220 石を賜り、持物は長柄 1 本、指物 1 本と記される。

井上弥左衛門

井上家はもともと肥後熊本藩主加藤清正に仕えており、加藤家が没落した後には泉州堺へと移り住み、その後福岡藩黒田家に槍術で仕えていた。黒田藩を依願浪人となったあとは、6代藩主有馬則維によって召し抱えられた。その後も、代々槍術に勤しみ、褒美や俸禄の加増が確認できる。井上弥左衛門照算は槍術「妙見自得流」の師範である。槍術家として名を轟かせ、全国より数百人もの門下生が集まってきたという。幼いころから武術に長けており、文政8（1825）年には槍術に精励したことを称えられ三人扶持を賜っている。天保3（1832）年にはさらに二人扶持を加えられ、同8（1837）年には御馬廻組に列し、七人扶持へと加増されている。同10（1839）年に150石の家督を継いだあとには、槍術師範役となり、弘化3（1846）年には50石増え、計200石を賜っている。同年の『手鑑』には、「師範役」の項に「天子正師範役 每才300目大小性格 井上弥左衛門 自得流」と見られ、毎年300目賜っていたことがわかる。嘉永5（1852）年には御使番格、安政5（1858）年には御側物頭格、慶応元（1865）年には御徒士頭格に配されている。『文久2年久留米藩分限帳 御手廻並嫡子分限帳』では、「御側弓鉄砲頭」「指物金馬蘭下四生、尤染色等勝手次第其外ハ知行当り」という記述がみられる。幕末期の第二次長州征伐の際には徒士隊の指揮者として出陣し、戊辰戦争の際には京都周辺の警備のために大砲隊を率いた。明治2（1869）年には五等師範役となり、翌年にはその役を退いている。照算は明治14（1881）年5月に没したが、明治26（1893）年12月に門下生らによって篠山神社境内に記念碑が設置されている。今回の調査で出土した遺物のなかで、彼に関連したものがある。それは、S K 130から出土した陶器の徳利であり、槍を持つ人物と「槍持ちの尚振り立つ流時雨哉」という俳句が描かれている。

#### 加藤郷蔵

御家中略系譜によれば、加藤家は2代目九右衛門が有馬入城に伴って福知山から来たことに始まり、600石を賜っていた。その子九右衛門一道は、元和10（1624）年に御馬廻組と200石の跡目を継ぎ、『有馬御陣御家中御扶持方帳』によれば「上下七人 三石壺斗五升」とあり、島原の乱にも出陣している。承応3（1654）年には御水主裁判として水主ら300人を預かっていたほか、寛文6（1670）年に大阪在番、寛文10（1674）年に大坂御留守居役および御使番役に就き、同13年に100石加恩され、300石を賜っていた。3代目加助も御使番役や大坂御留守居役、長崎聞役に着任している。その後、4代目九右衛門以降はたて続きに病死があり、養子をとっている。その後、他家の人間によって2度家名が立てられている。2度目に家名を立てた10代目加助の子こそ、加藤郷蔵である。御家中略系譜によれば、文政8（1825）年に150石および御馬廻並の跡目を継いでいる。弘化3（1846）年『手鑑』には、御馬廻組の六番組に名前を確認することができる。

#### 参考文献

久留米市市史編さん委員会編「米府紀事略卷之三 寛文分限帳 但、御馬廻以上」

「米府紀事略卷之三 寛永御家中分限帳 但、御馬廻以上」

「米府紀事略卷之十八 文政十一年八月大風日岬火一件覚」『久留米市史』第9巻 資料編 近世Ⅱ

篠原正一 1981『久留米人物誌』久留米人物誌刊行委員会

戸田勘吉 1895『久留米小史』巻廿一 五葉（1974年復刻）

御家中略系譜



第 19 図 十間屋敷遺跡第 10 次調査主要遺構時期変遷図 (1/150)

# 写真図版





(1) 調査区全景 (東上空から)



(2) 北調査区 (南から)



(3) 調査区から通町を望む (南から)



(4) 調査区西側断面 (東から)



(5) S D 3・31 完掘状況 (北から)



## 図版 2



(1) S D 7・37 完掘状況 (南から)



(2) S D 11 完掘状況 (南から)



(3) S D 20 完掘状況 (南から)



(4) S D 41 完掘状況 (南から)



(5) S D 77 完掘状況 (南から)



(6) S D 87 南壁断面 (北から)



(7) S D 87 完掘状況 (北から)



(8) S E 118 完掘状況 (南から)

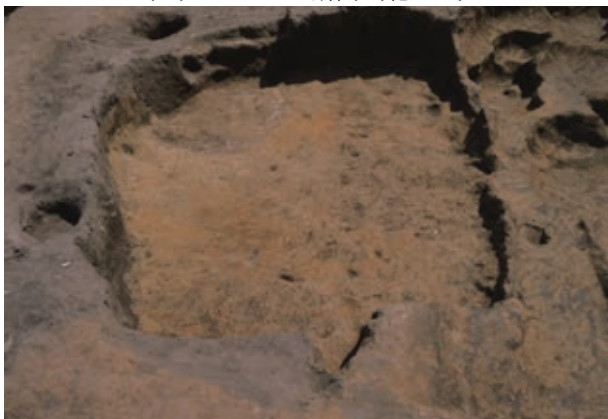




(1) S E 120 断面 (北から)



(2) S K 2 遺物出土状況 (南から)



(3) S K 4 完掘状況 (北から)



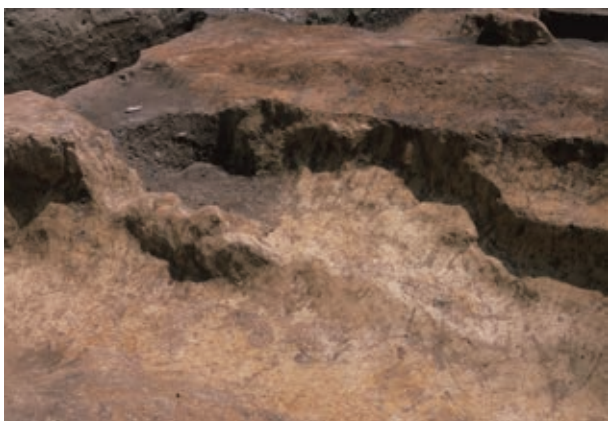
(4) S K 13 完掘状況 (南から)



(5) S K 14 完掘状況 (北から)



(6) S K 32 完掘状況 (西から)



(7) S K 40 完掘状況 (南西から)



(8) S K 59 完掘状況 (東から)



図版4



(1) S K 67 断面 (南から)



(2) S K 82 完掘状況 (北から)



(3) S K 93 遺物出土状況 (南から)



(4) S K 121 完掘状況 (南から)



(5) S K 124 完掘状況 (北から)



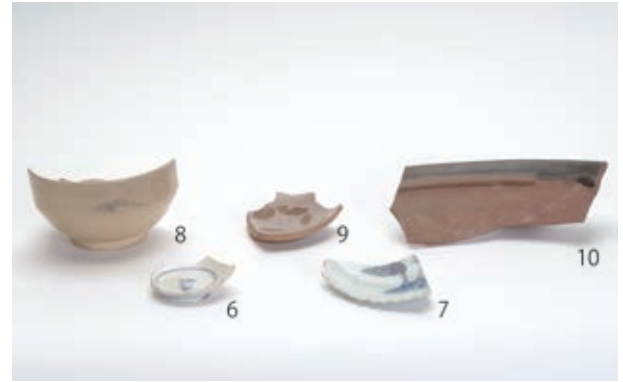
(6) S K 130 完掘状況 (南から)



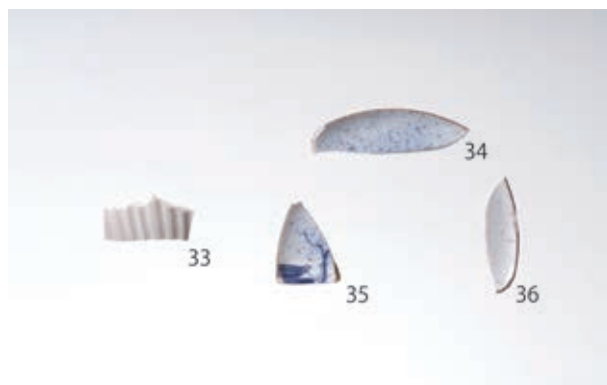
(7) S K 131 完掘状況 (北から)



(8) S K 139 完掘状況 (南から)



图版6









图版 8





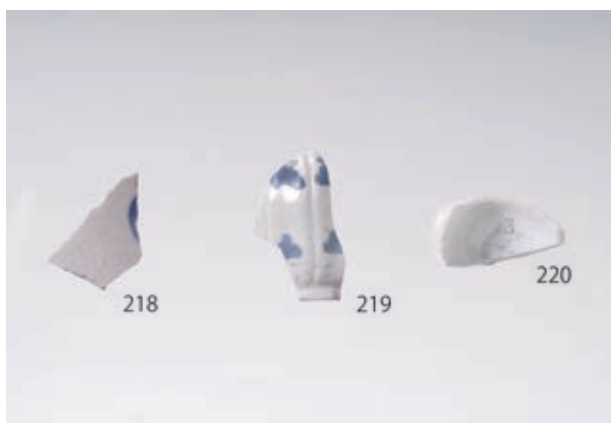
图版 10



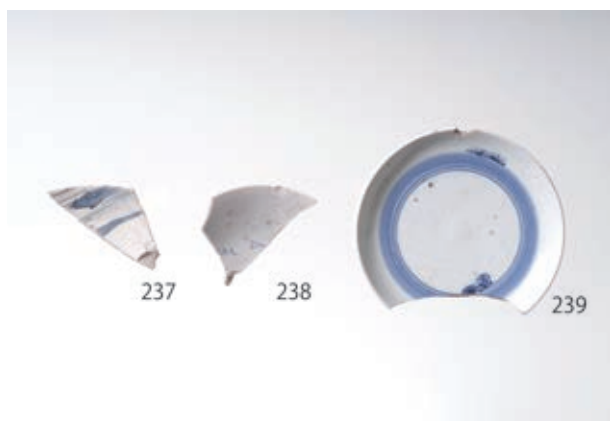
遺物写真 6



图版 12









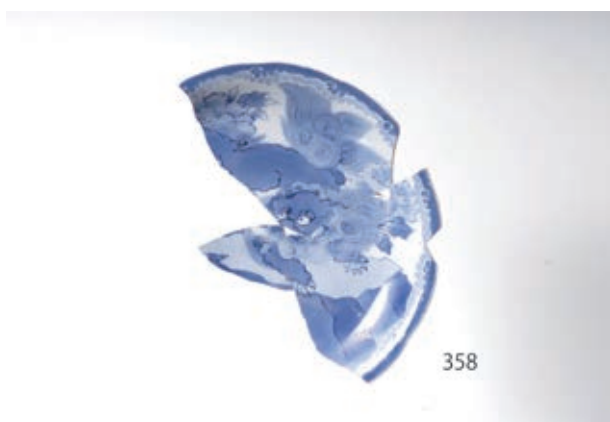
图版 14





图版 16

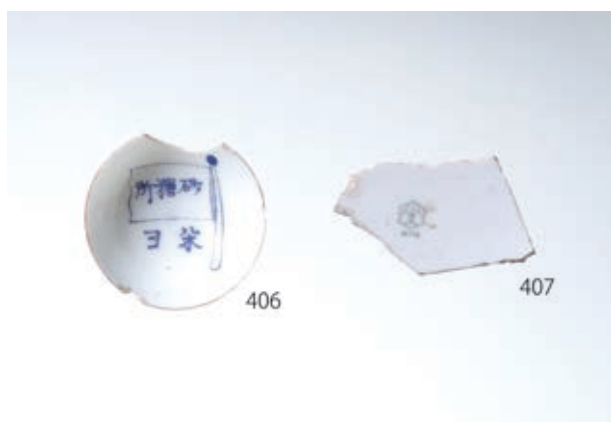
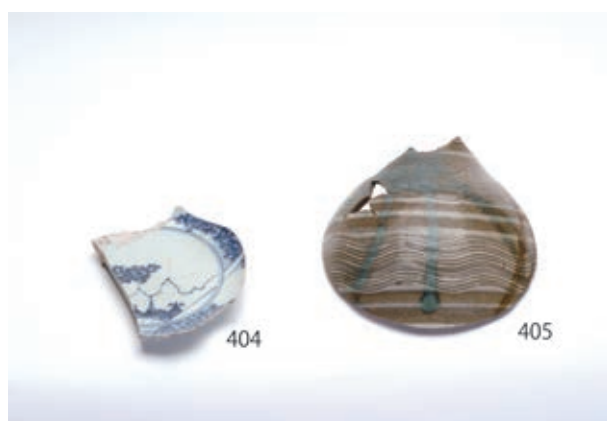




图版 18

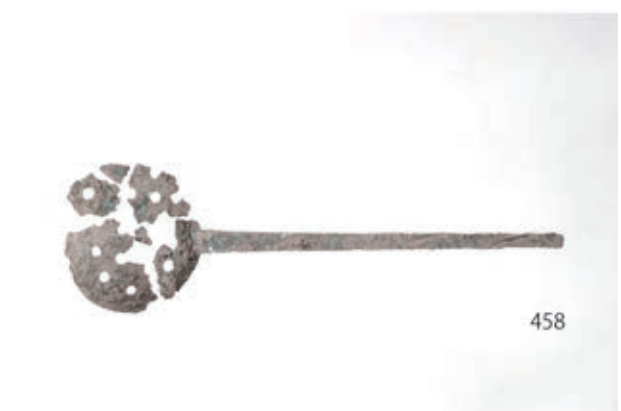
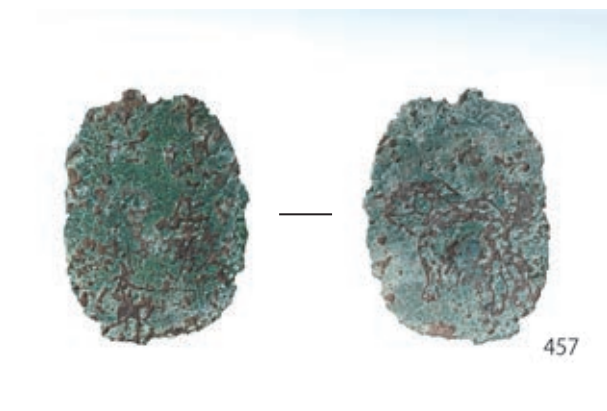








图版 20



報告書抄録

ふりがな	じっけんやしきいせき ーだい10じはくつちょうさほうこくー
書名	十間屋敷遺跡 ー第10次発掘調査報告ー
シリーズ名	久留米市文化財調査報告書
シリーズ番号	第415集
編著者名	大隈 彩未
編集機関	久留米市 市民文化部 文化財保護課
所在地	〒830-8520 福岡県久留米市城南町15-3 TEL:0942-30-9225 FAX:0942-30-9714 E-mail:bunkazai@city.kurume.fukuoka.jp
発行年月日	2020(令和2)年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
じっけんやしきいせき 十間屋敷遺跡 第10次調査	ふくおかけんく るめし 福岡県久留米市 ひよしまち 日吉町22-2、22-15、 22-16、22-17	40203	031200	33° 17' 44"	130° 32' 11"	20180611 ～ 20181012	288㎡	記録保存調査

所収遺跡名	種別	時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
十間屋敷遺跡 第10次調査	集落	近世	溝 井戸 土坑 不明遺構 ピット	19条 2基 105基 1基 多数	近世陶磁器、土師器、 瓦質土器、瓦、金属製品、 ガラス製品など	久留米城下の十間屋敷 における屋敷境の溝を 検出した。

要約

十間屋敷の四宮市右衛門邸および田尻次郎右衛門邸、のちの井上弥左衛門邸および加藤郷蔵邸を発掘調査した。近世を中心とした溝や井戸、土坑、ピットなどを検出した。調査区西部では多数の溝が確認され、17世紀から19世紀後半まで幅広い時期に及んでいる。溝は屋敷境としてほぼ同じ場所を踏襲してつくり替えられている。

土木工事の届出日	平成30年3月20日	遺物の発見通知日	平成30年10月15日 (30文財第934号)
----------	------------	----------	----------------------------

十間屋敷遺跡

—第 10 次発掘調査報告—

久留米市文化財調査報告書 第 415 集

令和 2 年 3 月 31 日

発行 久留米市教育委員会

編集 久留米市市民文化部文化財保護課

印刷 服部印刷株式会社

久留米市梅満町 410 - 1